

平成 30 年度協働パイロット事業
「住民が自らのくらしを良くする
『小規模多機能自治』の普及推進事業」業務

事業実施報告書

里山くらし LABO

1 委託事業の名称

平成 30 年度 協働パイロット事業

「住民が自らの暮らしを良くする『小規模多機能自治』の普及推進事業」業務

2 事業の目的・趣旨

地域住民が主体的に検討し、自ら実行した取組を情報交換し、学びあう「学び合い会」を開催し、地域住民が自ら地域の実情を把握し、主体的に考え、行動することの重要性を周知するとともに『小規模多機能自治』の普及を促進する。

3 事業期間

契約日から平成 31 年 3 月 31 日まで

4 実施場所

静岡市清水庁舎 3 階 会議室

5 事業実施内容の報告

(1) 関係者との打ち合わせ

- ・事業実施にあたり、市民自治推進課、葵区総務課、駿河区総務課清水区総務課、市自治会連合会理事会にて説明や聞き取り等を実施した。

(2) 事例紹介地区の選定及び分析

- ・平成 29 年度は中山間地の地区を事例としたが、2 回目となる 30 年度は、できるだけこの自治会でも共通する課題とするべく、地区の選定を行った。
- ・発表事例は、イベントでなく課題解決を目的としたもの、自分たちが主体で始めたもの、小さくても良いが積極的に進めているもの、で選定した。
- ・関係者からの事前情報をもとに、発表を 4 地区とし、各地区をまわり、趣旨説明と発表方法の説明を行った。
- ・前年度の取組がどうなったのか、静岡農業高校の高校生のうち、実際にその地域に住んでいる生徒に取材してもらい発表をお願いすることとした。
- ・同様に、自治会から意見の多い、「静岡市からの依頼」を削減した取組について、市民時推進課に発表をお願いした。

(3) 学び合い会の資料等作成及び準備

- ・学び合い会の名称を、前回と同様「しずおか自治取組発表会」とした。
- ・会場は、駐車場が確保できるところで 120 名程度が入る会場を検討し、J S T E P や常葉大学等も調整したが、静岡市清水庁舎での開催とした。
- ・開催日は、1 月下旬の日曜日として、1/20 に調整した。
- ・発表者だけでなく参加者も含めた、全員参加とするため、各発表に対して、参加者一人一人が付箋を記入し、模造紙に集約することとした。
- ・休憩時間に、お茶菓子として提供することとした。

- ・チラシ（A4 1P）を3000部作成し、市を通じて自治会等、関係機関に配布した。
- ・FBでイベントページを立ち上げ公開した。
- ・当日資料について、各地区と調整し、パワーポイントが不慣れな地域に対しては、事務局サイドで修正や補完の作業を行い、参加者がわかりやすい資料にした。
- ・各発表の内容について、静岡市全体の状況に関する資料を、静岡市の各担当課に作成してもらうことで、課題感の共有を図った。
- ・昨年度、当日まで参加人数の把握ができず困惑したため、今回は事前申込み制とした。

(4) 学び合い会の開催

・下記の通り開催した。

H31. 1. 20 (日) 13:30~16:00

静岡市清水庁舎 第3会議室

★司会 市民自治推進課 青木

- 1 開会挨拶 (市市民自治推進課長 小畑)
(清水区連合自治会長 高山会長)
- 2 趣旨説明 (里山くらしLABO 河村)
- 3 取組発表等 (前半) 各地区7分発表
 - ア 有事を見越した防災訓練 (吉川自主防災会)
【吉川自主防災会会長 廣田博さん、副会長杉山孝之さん】
 - イ 資金不足の解消 (丸子ときわ町自治会)
【丸子ときわ町自治会相談役藤原ひろしさん、大石太一さん】
 - ウ 高校生から見た地域の取組1 (両河内地区が運営する移動手段)
【静岡県立静岡農業高校2年生の小林あいかさん】
～ 休憩 10分間 ～
「清沢レモンティンフォン」と「追分ようかん」
- 4 取組発表等 (後半)
 - ★ 地域発表2地区への質問、回答
 - エ 自治会のIT化 (堂林自治会)
【堂林自治会の内山博之会長さん、IT委員の齋藤統也さん、鳥居浩平さん】
 - オ 活動を見直してコンパクトに (両河内地区)
【両河内地区連合自治会会長の中山さん】
 - カ 静岡市からの報告 (市民自治推進課)
【静岡市市民自治推進課 加納さん】
 - キ 高校生から見た地域の取組2 (梅ヶ島地区の女性を役員に)
【静岡県立静岡農業高校3年生の小泉くん、星野君 1年生の杉山君】
 - ★ 地域発表2地区への質問、回答
- 5 総評 (静岡市自治会連合会会長の瀧義弘さま)
- 6 閉会 (静岡市市民局 豊後局長)

○参加者数 130名 スタッフ数 12名 (うち市民自治推進課5名)

○参加者アンケート 別添のとおり

(5) 開催報告の作成、報告

別添のとおり、A3二つ折り版で1500部を作成しました。

6 考察・所感

《会の運営等》

- ・発表地区の決定が難航し、想定よりも手間と時間を要した。テーマを、どこでもありそうな課題とすることとしていたため、想定外に発表地区の決定が遅れた。
- ・地域の実際の担当者と発表することで調整がついていたにも関わらず、会長の理解が得られず断られてしまった地区があった。なお、この地区の発表事例は、市の補助を受けている事業であったため、市の事業に協力してくれるものと考えていたため、とても残念である。
- ・昨年度、申込を不要としたところ、参加者数が当日まで把握できなかったということが問題であったため、申込制とした。また、昨年度、市外、県外の方が多数来てしまったため、里ラボからの情報発信を抑えた。
- ・スタッフおよび静岡市の担当課の協力体制があり、当日運営はスムーズに行えた。
- ・参加人数としては、1月初めころは、申込状況が芳しくなかったが、直前になって申し込みが増加し、最終的には、会場一杯となった。これ以上増やすと、スクリーンが見えなくなったりするため、人数的には、これくらいで、いっぱいと思われる。
- ・楽しく明るい雰囲気づくりを目指し、良い雰囲気で開催できた。
- ・インフルエンザが流行していた時期であったため、マスクや消毒薬を配置し、気を付けたが、開催時期の検討は必要かもしれない。
- ・参加者に付箋への質問や感想の記入をお願いしたが、付箋の数も多く、抵抗なく実行できたと思われる。

《内容》

- ・参加者のアンケート結果挨拶からも、参加者の満足度も高いものと思われる。
- ・各地区の取組が、どの町内会でも共通の課題でもあったことから、参加者の満足度も高かったものと思慮される。
- ・発表者も、別の発表内容が参考になったとの感想があり、「学び合う」という目的は達成できたものと考えられる。
- ・7分間での発表ということで、情報の物足りなさがある分、開催時間はちょうど良いという感想が多かったことから、発表時間は、概ね良いものと考えられる。
- ・高校生を入れたことにより、雰囲気が明るくなり、静岡市の未来の可能性を示すことができたと思われる。会の趣旨を理解していただいた静岡農業高校の高木教諭のおかげでもあります。
- ・葵区、清水区で開催したので、次回は駿河区で開催かと思われる。一方、毎年、同じように続けていくのかどうかは、検討する必要があると思われる。

添付資料

- 1 開催チラシ
- 2 当日配布資料
- 3 開催状況写真
- 4 進行表
- 5 参加者アンケート集計
- 6 自治会配付用、開催報告

1/20(日)

だれでもOK
参加無料!!

あなたが解決したい 自治会のあの問題 解決のヒントが一挙に登場!!

自治会加入者の減少や役員の高齢化、活動資金の不足など、どの自治会でも話題にのぼるような問題に対し、先進的な取り組みを行う4地区の事例を発表。静岡市内各地ですでに実践されている、地域主導のすばらしい自治の取り組みについて、互いに学びあう会を開催します。

『しずおか自治取組発表会』

日 時：平成31年1月20日(日) 13:30～16:00

場 所：清水区役所3階 313会議室（静岡市清水区旭町6番8号）
できる限り公共交通機関をご利用下さい。
当日は、休日のため区役所通用口(港側)からお入り下さい。

対 象：自治に関わる方ならどなたでも参加できます。

定 員：90名(先着順)

参 加：無料・事前申込が必要です。

申込方法：静岡市コールセンターにてお申込み下さい。

受付期間：平成30年12月4日(火)～平成31年1月11日(金)

TEL:054-200-4894（受付時間：8:00～20:00）

FAX:054-200-4895（受付時間：24時間）

未来を担う高校生ゲストも登場!

～当日のテーマ～

活動を見直してコンパクトに(両河内地区) 資金不足の解消(丸子ときわ町自治会)
敬老会活動や地域組織の見直し これからは「地域で資金調達」

有事を見越した防災訓練(吉川自主防災会) 自治会活動のIT化(堂林自治会)
この地区に必要な訓練と住民の巻き込み方 いつでも誰にでも伝わる情報の共有

※順不同敬称略 ※一部、内容が変更になる可能性もあります。ご了承下さい。

【主催】静岡市

【問合せ】静岡市市民自治推進課

電話：054-221-1265

FAX：054-221-1538

【企画運営】里山くらしLABO

メール：labosatoyama@gmail.com

電話：090-4670-8249(河村)

※日中は電話がとれないことが多々ありますご了承下さい。

※本発表会は、平成30年度静岡市協働パイロット事業として開催いたします。

しずおか自治取組発表会 次第

H31.1.20(日) 13:30~16:00

静岡市清水庁舎 第3会議室

1 開会挨拶

2 趣旨説明

3 取組発表等 (前半)

ア 有事を見越した防災訓練 (吉川自主防災会)

イ 資金不足の解消 (丸子ときわ町自治会)

ウ 高校生から見た地域の取組1 (両河内地区が運営する移動手段)

～ 休憩 10分間 ～ (ストーリーのあるお茶うけもどうぞ)

4 取組発表等 (後半)

★ 地域発表2地区への質問、回答

エ 自治会のIT化 (堂林自治会)

オ 活動を見直してコンパクトに (両河内地区)

カ 静岡市からの報告 (市民自治推進課)

キ 高校生から見た地域の取組2 (梅ヶ島地区の女性を役員に)

★ 地域発表2地区への質問、回答

5 総評

6 閉会



しずおか自治取組発表会

里山くらしラボ(通称：里ラボ)

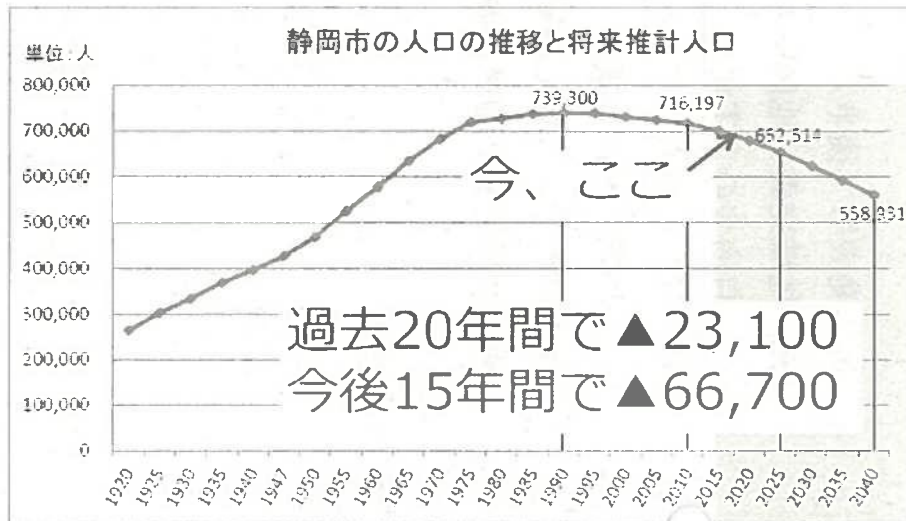
人口が減っても生き活きと暮らせる
持続可能なコミュニティづくり



2

静岡市が抱える問題①人口減少

静岡市の人口減少はこれから H27 静岡市人口ビジョンより

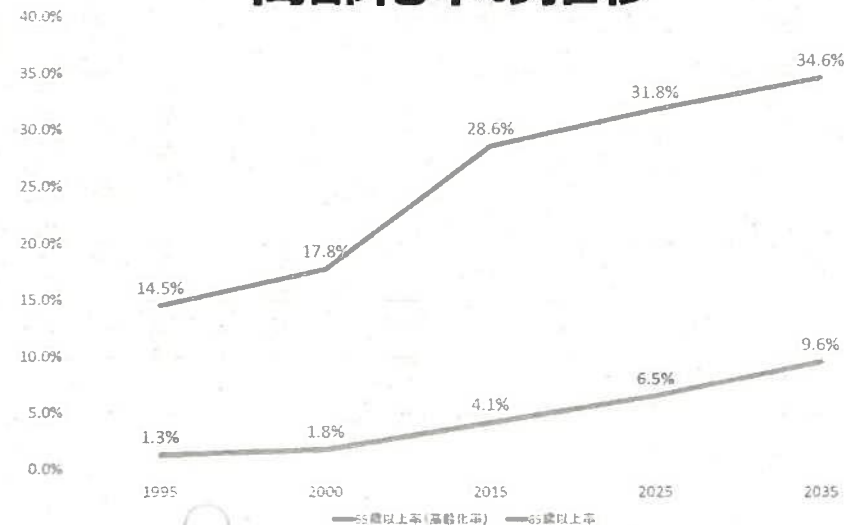


出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2013年3月推計）」

3

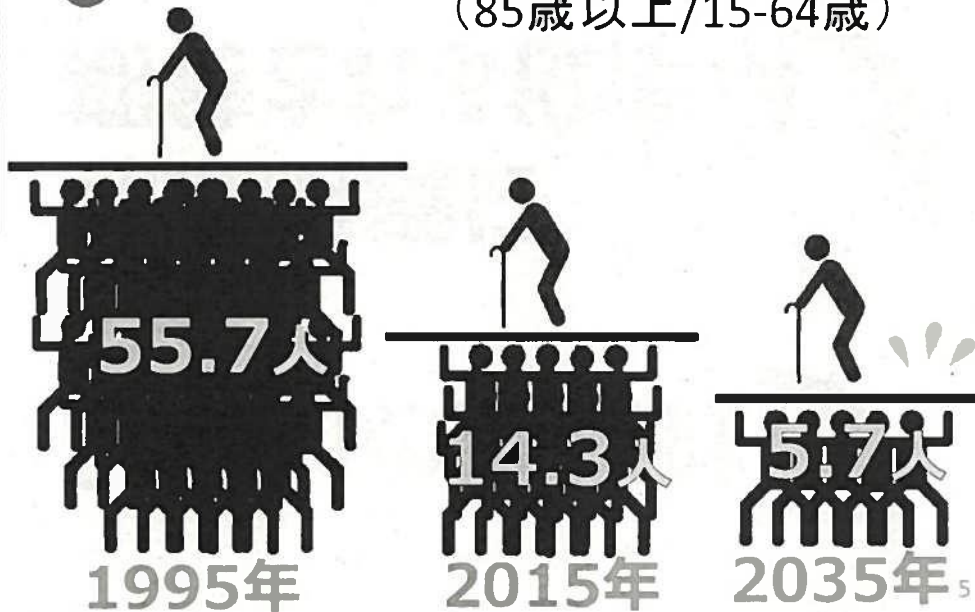
静岡市が抱える問題②少子高齢化

高齢化率の推移



4

85歳以上を支える人数
(85歳以上/15-64歳)



静岡市が抱える問題③公共施設の老朽化

静岡市の公共施設の現状

道路・上下水道等

公共施設等



約30%が
築50年以上

約55%が
築30年以上

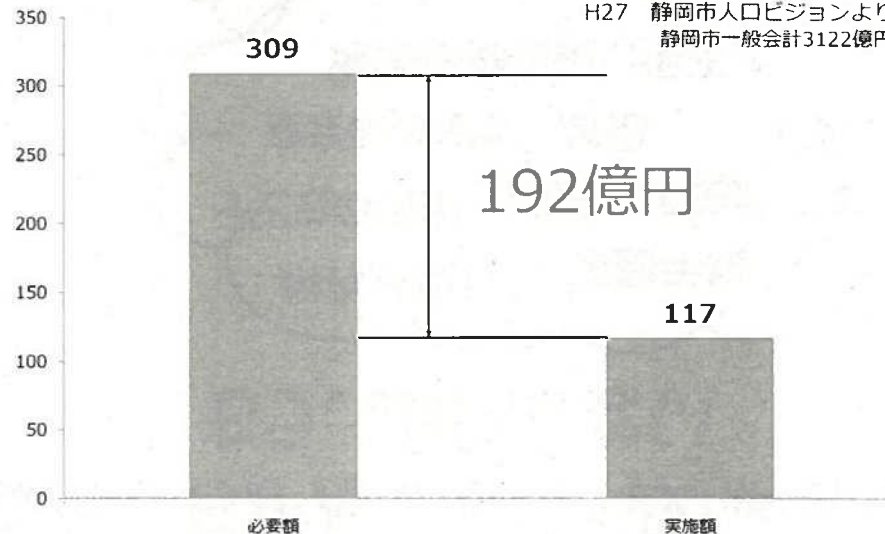
静岡市、今後30年
公共施設の維持・更新に
どのくらいのお金か
かかるとお思いますか？

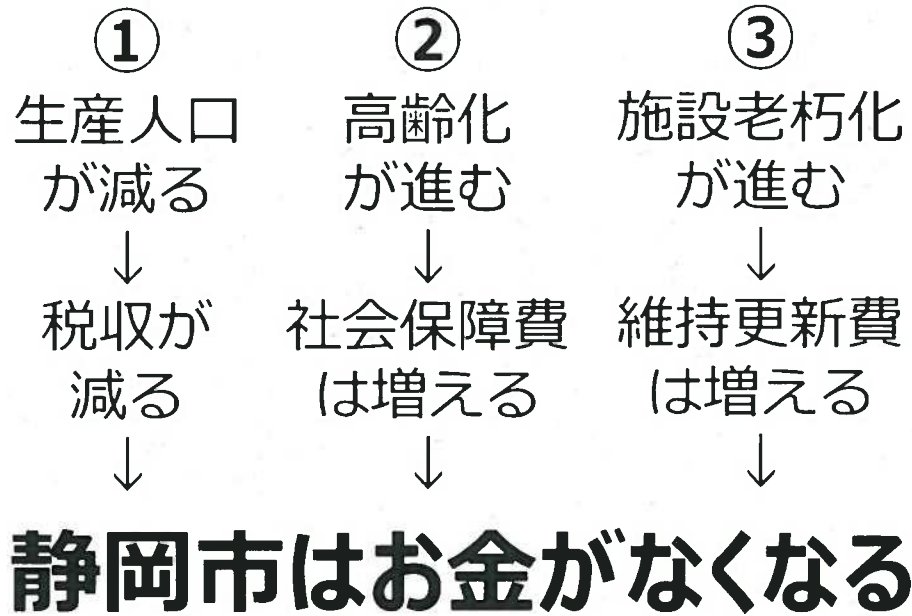


H27 静岡市人口ビジョンより

なんと、毎年309億円
192億円も足りない

H27 静岡市人口ビジョンより
静岡市一般会計3122億円





なんでもかんでも「行政(静岡市)」 もう、通用しない

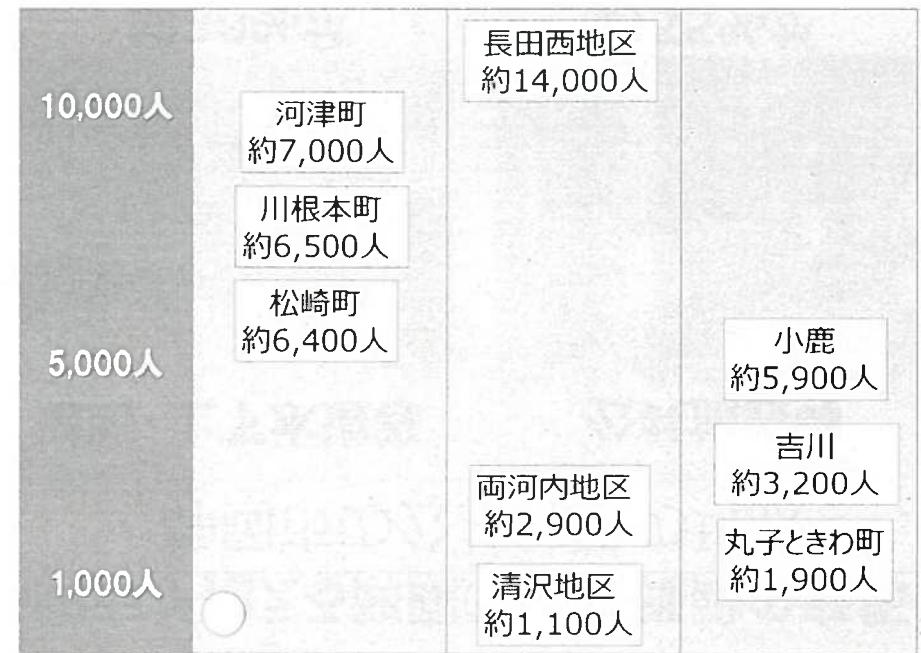
どうなるんだ…

耕作放棄地 移動手段
子どもの貧困 高齢者の生活不安
空き家の増加 防犯 防災
地域活動の担い手不足

「共助」の重要性

地縁組織に
期待される役割増

静岡の地縁組織



地縁組織を取り巻く現状

災害不安 役員の高齢化

人口減少

住民の高齢化 世代間ギャップ

ライフスタイル 行事の参加者減
の変化

役員の手不足

自治組織加入率の低下

13

誰かが対処方法を教えてくれる？

× 行政 × 専門家

何を参考にしたらいいのか？

全国の成功例



歴史も政策も違う



× すぐ定着できない

14

○ 同じ制度の下・同じ静岡市内
地域で考え、思考していくこと

○ 学び合うこと

○ 小さくても動き出すこと

15

吉川自主防災会

静岡市清水区 吉川自治会

「有事を見越した防災訓練」

(必要な訓練と住民の巻き込み方)

1

〈吉川自治会〉 所属地区連合 → 静岡市清水区有度地区

有度地区 → 人口 約37,400 / 世帯数 約16,700

有度地区連合自治会加入世帯数 約12,000

吉川 → 人口 2,788 / 世帯数 1,223

半左衛門新田 → 人口 390 / 世帯数 190

人口 3,178 / 世帯数 1,413

吉川自治会加入世帯数 750 隣組数 50

※静岡市ホームページ「静岡市の人口及び世帯の推移」(平成30年9月現在)

2

国道1号線を挟んで

南端 → JR東海道線(静岡)

北端 → 巴川

※小糸製作所吉川工場がエリアの約15%を占め、その周辺には工場が多い

〈海拔〉

■南エリアは海拔10m~16m

■中心部は5m~10m

■北エリアは5m未満~5m



3

吉川自主防災会

〈防災指導員〉 25人

〈アマチュア無線技士有資格者〉 16名

〈自主防災会以外の有資格者〉 7名

(有度地区内約70名のうち約33%)

4

<設立背景> 昭和53年設立 平成7年静岡県知事褒賞受賞

- ① 人口が多い（有度地区で最多）
- ② エリアが広い
- ③ 幅員の狭い道路が多いため緊急車両が通行できない可能性がある
- ④ 国道1号線が「事前通行規制区間」および「一次緊急輸送道路」に指定されているため吉川が分断される可能性がある
- ⑤ 小糸製作所周辺には化学工場が多い
- ⑥ 吉川自治会内にある静岡市消防団清水第12分団の分団長および団員経験者が多い

5

<取組み①>

- ① 自治会本部倉庫をはじめ、地域内6カ所に防災倉庫を設置
- ② 国道を挟んで南エリアに3カ所、北エリアに3カ所
- ③ 南エリア全防災倉庫近隣には貯水槽を有する
- ④ 北エリア2つは防災倉庫の近隣には小川が流れている
- ⑤ 各防災倉庫に担当防災指導員を配置
- ⑥ 同種同数の防災資機材を各倉庫に設置（ガス発電機を除く）
- ⑦ 50組の隣組を南北それぞれ3グループに分けて、隣組長が安否確認・消火および救出活動・救護などを行う

6



- 一次避難地
- 防災倉庫設置場所
- 消火器設置場所
- 消火栓の場所
- 井戸水利使用可能な世帯

7

<取組み②（防災資機材）>

- ・可搬ポンプ
- ・リヤカー 全7
- ・テント 全11
- ・発電機 全6
- ・炊き出し機材 全10
- ・油圧ジャッキ 多数
- ・ガス発電機 2
- ・AED 1
- ・簡易トイレ（大）6
- ・簡易トイレ（小）12
- ・無線機 20
- ・浄水器 1
- ・その他小道具など



油圧
ジャッキ



可搬ポンプ



浄水器

8

<取組み③（防災訓練）>

5月	第1防災倉庫	
6月	第2防災倉庫	
6月	テント設置訓練（吉川三世代家族運動会）	約400名
7月	第3防災倉庫	
8月	第4防災倉庫	
9月	炊出し訓練（有度地区体育大会）	約100名
10月	第5防災訓練	
11月	第6防災倉庫	
12月	地域防災訓練	約500名

9

<取組み③（月例防災訓練）>

- ① 月例防災訓練当番隣組住民は各指定防災倉庫に定刻に集合
- ② 参加者は避難者名簿に記入し隣組長は不参加者の把握
- ③ 防災指導員が可搬ポンプやチェーンソー、発電機の取り扱いを説明し、未経験の住民に積極的参加を促す
- ④ 貯水槽が近隣にある防災倉庫は可搬ポンプで給排水を実施
- ⑤ 近くに小川がある防災倉庫は川を板などで堰き止めて給水し近くにある側溝掃除を兼ねて放水

10

<取組み④（テント設置訓練）>

6月末に実施される「吉川三世代親子運動会」において

あらかじめグループ分けされた隣組長は、グラウンド設営時に防災指導員の手を借りずにみんなで協力し合って、グラウンドにテントを設営する。

運動会のグループ分けは3年に一度シャッフルし、なるべく多くの近隣住民と顔見知りになる

12



<取組み⑤ (炊出し訓練)>

9月に開催される「有度地区体育大会」の吉川自治会選手の昼食時のおにぎりを作る

体育大会の会場とは別に吉川八幡神社と吉川東公園の2カ所で「炊出し訓練当番隣組」が炊出し後、おにぎりを数百個作る
※有度地区では吉川自治会独自の取組み

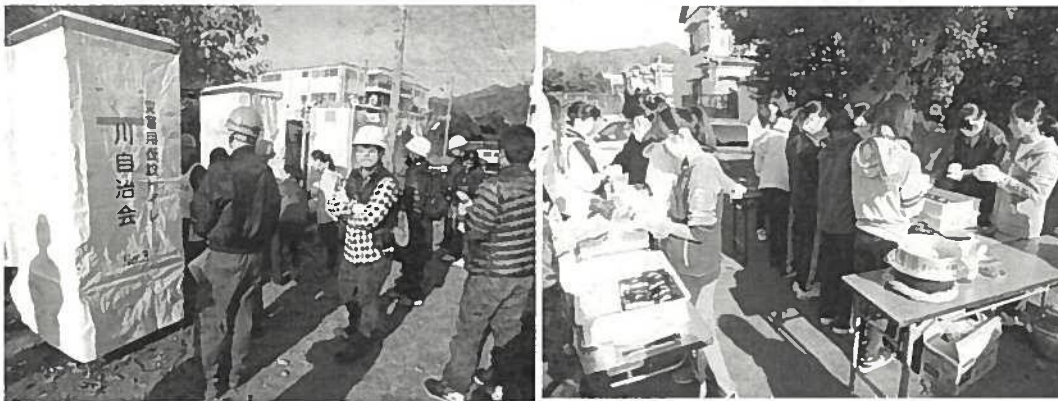
13

<取組み⑥ (地域防災訓練)>

12月第1日曜日の「県下一斉防災訓練」において
(吉川自治会の会場は吉川八幡神社と吉川東公園の2会場)

- ① 各隣組は指定防災倉庫に定刻に集合し隣組の状況把握 (安否不明など)
- ② 自治会の一次避難地に住民の手で必要な防災資機材を防災倉庫からリヤカーを利用するなどして搬出
- ③ 中学生 (吉川在住の七中生と八中生) は炊出し ※準備 (薪割りから) → 調理 → 配給
＜重要＞ 役員 (大人) はなるべく手を貸さない
- ④ 避難地設営訓練として、簡易担架の作り方・ガス発電機の使用法・チェーンソーの使用法・簡易トイレの組立 (男女別、入口の向きなど)・市民トリアージの説明と体験

14



15

<現在の問題と今後の伸展>

- ① 世代交代が急務
→ 若い世代への啓蒙 (スマホ世代の取り込み)
- ② 組織内の情報共有のシステム化
→ ITの活用
- ③ 住民へ「自助」の理解徹底
→ 青少年向け防災イベントの開催
→ 自治会加入世帯を増やす (現在約50%)
- ④ 訓練が可能な場所と一次避難地の確保
→ 2020年春に「吉川防災公園 (仮称)」
(約2,500m²) が完成予定

16

自主防災組織の結成状況や支援状況

静岡市危機管理課

自主防災組織結成状況等

○結成状況

平成 30 年 4 月現在

	葵区	駿河区	清水区	計
自治会・町内会数	440	225	291	956
自主防災組織数	440	225	316	981

※連合自主防災組織は含まない

○自主防災連絡会（年 3 回実施）

地域における災害対応と情報収集を迅速かつ的確に実施するため、従来の単位自主防災組織の活性化と単位自主防災会を束ねた連合自主防災会の組織強化を図る必要から、区ごとに各連合自主防災会長、消防団、区地域総務課長、消防署長、危機管理課長からなる「区自主防災連絡会」を組織しています。連絡会では、自主防災の活性化、市防災体制について理解を深めていただき、より実践的な災害対応に向け訓練の方法・内容等について情報交換を行うほか、各種事務手続き等の連絡調整等も行っています。

自主防災組織に対する支援

○補助金

区分	補助率	限度額	備考
防災倉庫設置費	1/2 以内	30 万円	防災倉庫設置に対する補助
防災資機材等購入費	1/2 以内	20 万円	防災資機材購入に対する補助
消防ポンプ等購入費			
ポンプ本体	10/10	40 万円	可搬消防ポンプ（C-1 級以上）購入補助
ポンプ用資機材	1/2 以内	20 万円	可搬消防ポンプ（C-1 級以上）に係る資機材購入補助
防災倉庫用地借地料	1/2 以内	5 万円	防災倉庫用地における借地に対する補助
避難路等整備費	1/2 以内	30 万円	避難路・避難場所等の整備に対する補助

○防火防災訓練災害補償等共済制度（日本消防協会）への加入

市や自主防災組織等が実施した防災訓練において、当該訓練に起因する事故により傷害を受けた方に対して、療養費等の補償を行う制度です。

その他

○出前講座（下表は直近 3 年の実績）

自主防災組織や町内会、企業などからの依頼を受け防災の基礎知識や被害想定、家庭での対策など要望に応じた講座を実施しています。

年度	回数	参加人数
平成 29 年度	213 回	14,678 人
平成 28 年度	224 回	21,579 人
平成 27 年度	230 回	15,919 人

自治会活動資金の安定調達を

丸子ときわ町の資源回収の実例

静岡市廃棄物減量等推進委員
丸子ときわ町委員:藤原 博/大石太一

1

丸子ときわ町は

総人口 1,905人

総世帯数 715 会員世帯数 683 95.5%

準会員世帯数 701 98.0%

東部 中部 西部 合計 15組 50班

65歳以上の世帯数 433 一人数 656人 高齢化率 34.4%

2018年9月30日現在 自治会調査

2

丸子ときわ町全図と廃棄物回収場所



3

丸子ときわ町自治会の資源回収の経緯

- ・ もともと2000年より前から古紙回収の取り組みはやってきた
- ・ 2010年頃から古紙回収量が少なくなってきた
- ・ 2014年 静岡市から大石、藤原の2名が『廃棄物減量等推進委員』の委嘱を受け これを機に古紙の分別回収を呼びかけた
- ・ 更に アルミ缶の高価買い取りの情報を得て、スチール缶との分別回収の徹底を図る
- ・ 月に1回、減量推進委員独自の回覧を発行して、自治会活動資金調達への協力を呼び掛け、真剣に取り組む

4

「ごみ出し」の「資源回収」のご案内と注意事項

よりよい環境を「ごみ出し」を通じて実現するために、可燃・燃焼物・資源物の分別収集を推進し、資源物の回収率を向上させることに取り組んでいます。資源物の回収は、資源物の分別収集を推進し、資源物の回収率を向上させることに取り組んでいます。

資源物の分別収集の留意事項

- 資源物の分別収集は、資源物の分別収集を推進し、資源物の回収率を向上させることに取り組んでいます。
- 資源物の分別収集は、資源物の分別収集を推進し、資源物の回収率を向上させることに取り組んでいます。

アルミ缶・ビン・スチール缶・スプレー缶回収の日

親子で学び町自治会では、自治会費財源確保のため、資源と交換し、アルミ缶の資源での買い取りを実施しました。そのため、平成27年10月からアルミ缶のみを古紙回収日に回収いたします。

アルミ缶・ビン・スチール缶・スプレー缶回収の流れ・作業手順は下記の通りです。主旨をご理解いただきご協力をお願いします。

- 日曜日から家庭でアルミ缶、スチール缶、スプレー缶を分別しておく
 - 〇洗い洗ないで水洗いをせず
 - 〇アルミ缶は手で握つることで、つぶして邪魔を小さくする
 - 〇スプレー缶は使い切り、空にしておく
- 指定日に整理券に出す
 - 〇アルミ缶は古紙の日に出す。
 当番が整理券が終わってから出すときは、必ず以下のようにして出す
 - 〇ビンは黄色いコンテナに入れ、
 - コンテナを積み重ねて蓋をふた、上には汚染をしないように入れる。
 - 〇ビン・スチール缶回収日に出す缶は、各家庭から持っている缶から出し

協力をお願いします

- 可燃ゴミ、ビン・缶それぞれの回収日時を守る
- 不燃物は各家庭で市役所に連絡する
- 生ゴミの中には食品トレー、ペットボトル、不燃物等を混入せず、特に紙類は分別して古紙回収に協力を
- アルミ缶は古紙回収日に洗浄して出すように
- ビン・缶の日はやむを得なく分別整理が必要で各回収所に当番を決めて、特にアルミ缶の分別を
- アルミ缶、スチール缶は回収所に置いている市指定のゴミ袋に各自移し替える

静岡市からの告知チラシ(家庭保存版)

自然環境を守るために、今私たちに出来ること

雑(ざつ)がみは紙に生まれかわります!

紙袋に入れる
紙ひちでしばる
雑誌等の間に挟む

古紙回収

再生紙へ

平成26年度ごみの出し方・分別ガイドブックP.8
もあわせてご覧ください。日程、場所、出し方は、お住まいの地域の自治会・町内会にご確認ください。

ごみ出しについてお願いします

ご協力ありがとうございます!

一回回収した紙類です。大袋には分別されたそれぞれの紙が入って、製紙されています。

大袋ごみの種類もあり付分、分別しやすいよう工夫されています。

1か月分のアルミ缶です。32か月で約20万円の貴重な自治会運営経費となり、町内の防災用125万の維持管理費へ、効果発揮等になっています。

時間厳守 すべて8:30まで

古紙・アルミ缶 回収現場



古紙の日に業者に
第二公民館に運ん
でもらう



第二公民館内①



第二公民館内②



古紙・アルミ缶の日

ビン・缶の日



ビン・缶の回収現場



古紙が月にトラック4台

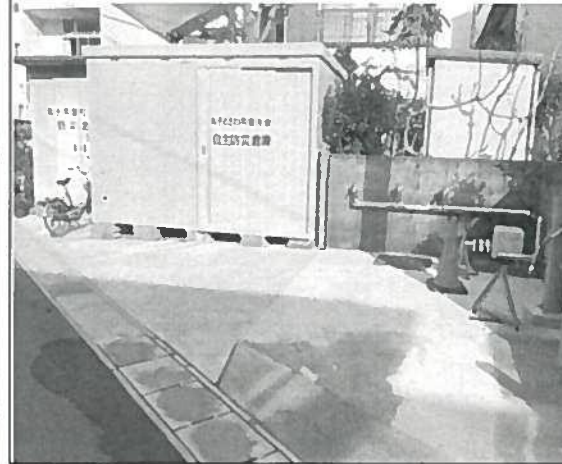


アルミ缶がトラック1台



市の補助金を加えて約40万円の防災倉庫を購入(他に2カ所)

他に購入した防災用品
(市からの補助金加算)



- ・発電機 5台
- ・アルミ製の折りたたみ式リヤカー 5台
- ・備蓄毛布 56枚
- ・スリープキット 6組
- ・ワンポイントトイレ 5個
- ・ダンボールトイレ 7個
- ・避難用レジャーテント 3個
- ・LEDズームライト 35個
- ・AED 1個
- ・ハンズフリー拡声器 2個
- ・充電式カッター 1個
- ・他

軽トラックの購入



町内125個の街灯のLED化

で夜道も明るい



	回収方法	静岡市 資源回収 活動奨励金		業者A
缶	アルミ缶	2円/kg	+	60円/kg
	スチール缶	2円/kg	+	取り扱いなし
びん	びん	1円/kg	+	取り扱いなし
古紙類	新聞紙	4円/kg	+	8円/kg
	段ボール	4円/kg	+	8円/kg
	雑紙	4円/kg	+	6円/kg
繊維類	布	4円/kg	+	6円/kg

※駿河区の場合の単価

静岡市HP古紙回収業者一覧よりA業者に問合せ

	回収方法	収入
1	業者の回収所	0円
2	市の指定場所	0円
3	自治会などの資源回収	市の奨励金
4	業者と直接交渉	市の奨励金 + 業者の価格

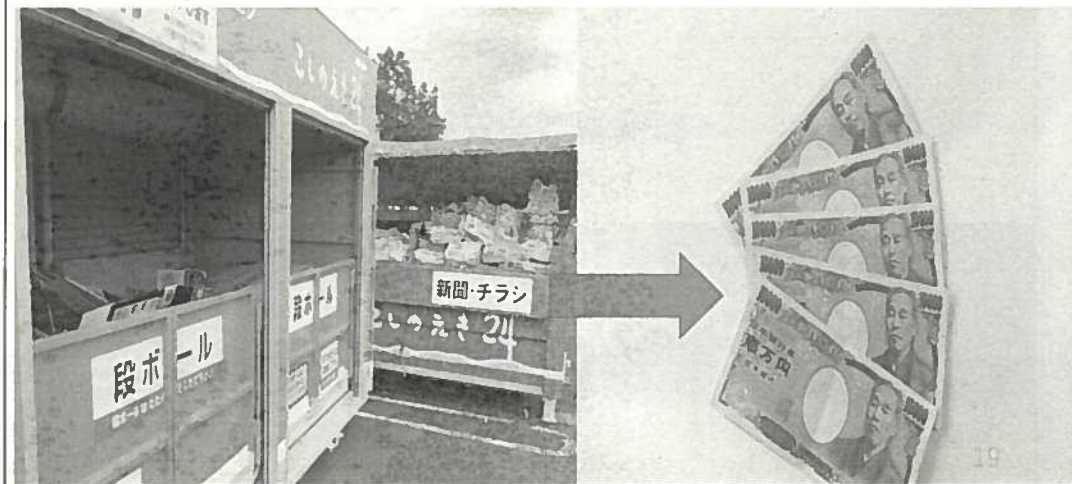
丸子ときわ町の資源回収での資金調達は
町内みんなの協力により

ほぼほぼ年間安定して

70万円

稼いでいます!!

これだけの家庭から出る古紙を町内みんなでも回収
しないなんて、もったいないと思いませんか？



資源物の収集について

環境局収集業務課

1

1 資源物の収集方法

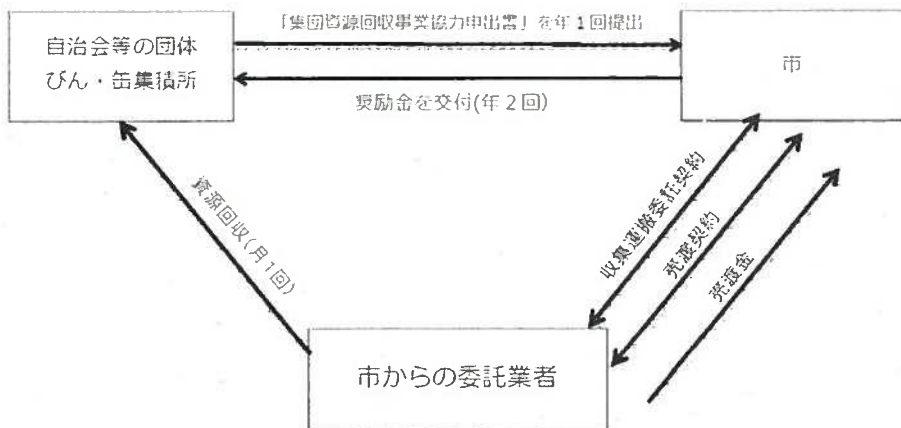
- 古紙・雑がみ以外は市が回収しています。回収した資源物は市が各業者へ売り渡しています。
- 古紙・雑がみについては、自治会・PTA等による集団回収となるため、それぞれの団体が業者と契約し、業者へ売り渡すこととなります。
- ★印のあるびん・缶と古紙については、リサイクルの促進と廃棄物の減量化を奨励するため、奨励金が自治会・町内会等へ交付されます。

品目	実施団体	収集方法	収集日	集積所等における回収量 (H29実績)
★びん	市	集積所	月1回	4,099 t
★缶・スプレー缶等				1,374 t
ペットボトル		拠点回収 (葵区・駿河区) 集積所 (清水区)	随時 (葵区・駿河区) 月1回 (清水区)	330 t
使用済小型家電		拠点回収 (公共施設等)	随時	580 t
★古紙・雑がみ類	自治会・PTA等	集団回収	実施団体が回収する日	13,703 t

2

2 奨励金フロー (びん・缶)

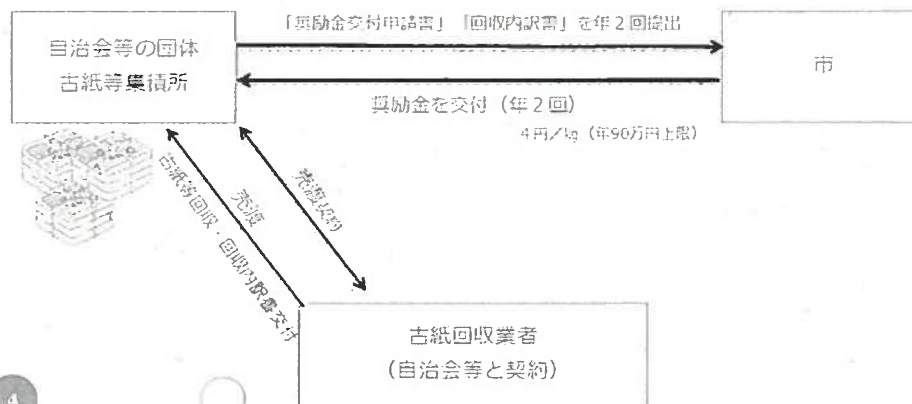
○自治会等へは回収量、品目に応じて奨励金が交付されます。



3

3 奨励金フロー (古紙)

- 自治会等が古紙回収業者と売渡契約を締結します。
- 自治会等へは、回収業者から古紙の売渡金が支払われ、市からは、回収量に応じて奨励金が交付されます。



4

4 自治会等の独自回収について

市の回収対象品目である、アルミ缶等について、自治会等が業者と独自契約して、売り渡す場合



市の回収と混同しないよう、市のびん・缶回収日とは異なる日の回収となるようお願いします。

※自治会等で独自回収するアルミ缶については、奨励金の対象にはなりません。



○活動の背景

現状バスは減便で不便、高い → ますますバス離れ
小中高の登下校に使えるバス少ない
高齢者増加で移動支援が必要に

○活動の経緯

H23年 連合自治会にバス検討委員会設置
H23年 第1回住民アンケート
H26年 高校生利用状況調査
H27年 清沢地区過疎地有償運送実態調査
H28年 第2回住民アンケート 回収率77% デマンドに賛成93%

ここから一気に加速
H28年 連合で本格的に具体的調査、計画開始
自治会長会議にて取り組み承認
H29年 NPO 法人清流の里両河内設立
H29年 静岡市で認可、予算措置
H30年 4月から運行

○活動の理念

交通移動弱者を救う
全集落を対象に（たとえ3軒でも）
どの家からも200m歩けばバス停
ドライバーに女性を
住民に便利な乗り物を提供する
但沼車庫で全便とも5分で乗換→通学利用を
利用料金下げ
こども園、小中学校の登下校に合わせた運行
小中学校の学校間移動、校外活動支援
地元に雇用を
ドライバー9名+事務職1名+管理者4名 計14名採用

○要望から自主推進へ

市の計画⇒説明会⇒地元委員会で相談⇒修正要望⇒
 市で練り直し⇒説明会⇒・・・⇒の繰り返し
 担当者を決め自前で計画、立案

利用者予測調査、運行計画、車両・事務所・人員計画、実行予算
 市が進めてくれる

関係部署調整
 ジャストラインとの調整 一気に加速

○役員からみんなの計画に

自治会・委員会役員で相談
 計画アピール
 紹介パンフ作成
 小・中全生徒にネーミング応募依頼（ココバスは金賞）
 敬老会、体育祭、各ふれあいイベント、交流館だより・・・

「お年寄りと子どものために」理念の徹底

○地元で盛り上がる

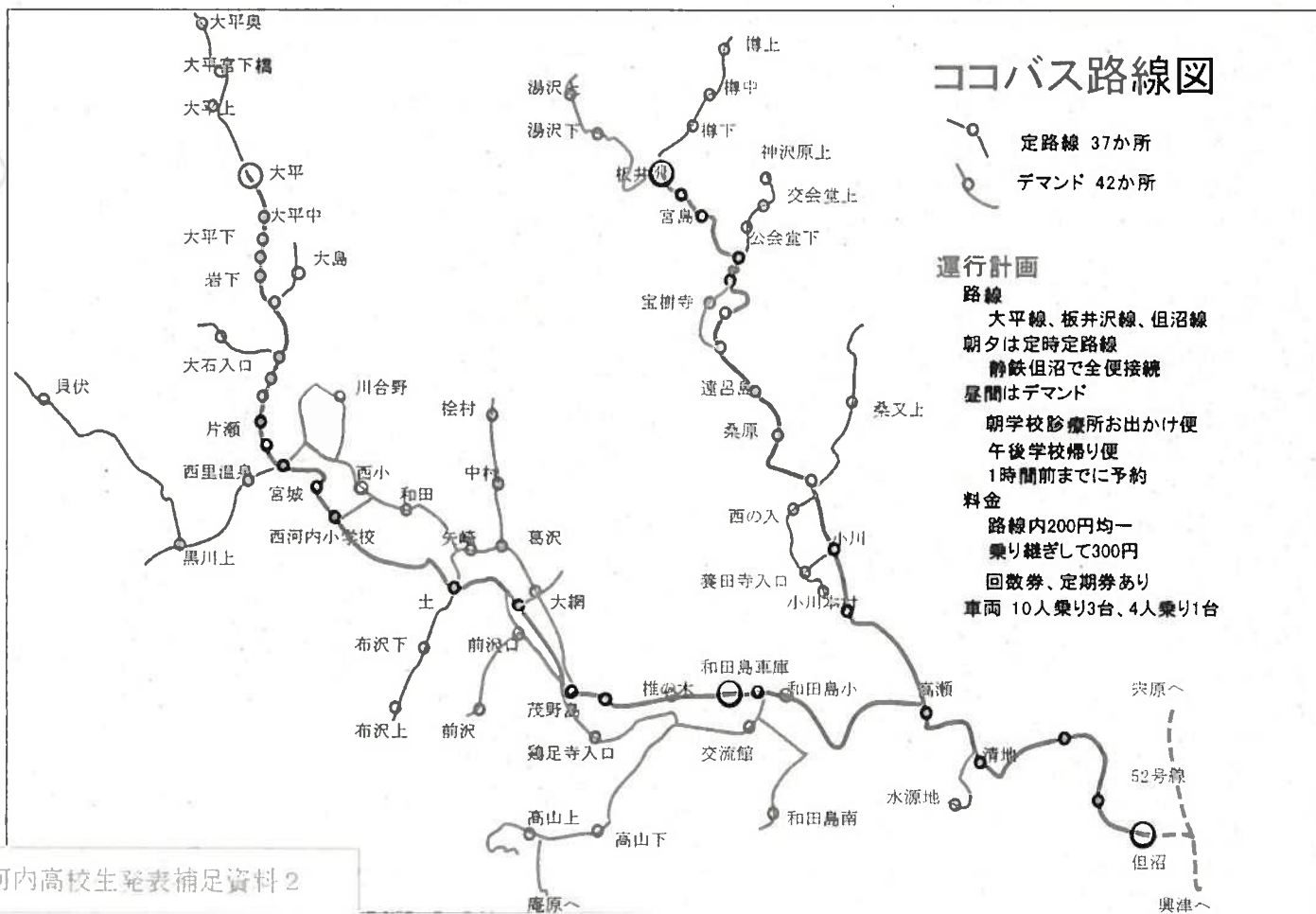
従業員募集に多数応募
 バス停設置への積極的協力 42 か所

ココバス路線図

定路線 37か所
 デマンド 42か所

運行計画

路線
 大平線、板井沢線、但沼線
 朝夕は定時定路線
 静鉄但沼で全便接続
 昼間はデマンド
 朝学校診療所お出かけ便
 午後学校帰り便
 1時間前までに予約
 料金
 路線内200円均一
 乗り継ぎして300円
 回数券、定期券あり
 車両 10人乗り3台、4人乗り1台



自治会活動の情報共有における ITの活用について

いつでも誰にでも伝わる情報の共有

堂林自治会 IT委員
堂藤林也 鳥井浩平

doubayashi.org

※ スマホのGoogleで上記文字を入れて検索して下さい！ 1

① 取り組みの背景 (何が問題で取り組むことになったのか)

- ※ 訃報等の緊急連絡体制の確立
- ※ ウェブサイトを利用した回覧板の閲覧
- ※ 自治会活動の紹介および活動報告
- ※ 地域住民からの意見の収集

② 取組を始めた経緯 (誰が考えどう取り組んだのか)

- ※ ITを活用した回覧板の閲覧
有益な情報を、いつでも見直しができる
- ※ 岡地区連合自治会および堂林自治会での様々な活動報告
地域のみなさんに役立つ情報提供
- ※ 交流掲示板を使用した緊急連絡手段としての活用
地域住民からの意見の徴収
自ら率先して、簡単にコメントを書き込むことが大事！
(書き込みやすい雰囲気づくり)

③ 始める際の課題 (大変だったこと 苦労した点など)

- ※ ホームページ作成のスキルの習得
ホームページV3(ソースネクスト)⇒WordPress
- ※ 見やすい内容で、多くの人達に見てもらうため
イベント活動時の写真撮影やイラスト図面を作成(コツ)
- ※ 個人的なサイト運営と違ってネタは豊富(ポイント)
閲覧手段がパソコンからスマホに替わってきている

④ 取組の結果

(どのような結果で、どう変化をしたのか)

- * 堂林自治会館にWi-Fi電波の導入 (2016年5月)
- * ホームページの存在は知られていても(約60%)
見たことがある人は少ない(約20%)
※平成27年度 清水区まちづくり協同会議アンケート結果より
- * 自治会の情報発信をホームページ形式から
WordPressを使用した**ブログ形式**に変更
LINE・Facebook・Twitter等のSNSとの連携強化
- * 里山くらしLABO 北脇自主防災会 からの問い合わせ
自治会や区の垣根をこえた団体との交流が始まろうと
している。

5

⑤ 今後の展開

(目標や改善したいところ、課題など)

- * 投稿や固定ページの追加更新を行い地元住民および、
訪問者に役立つコンテンツを増やしていく。
- * 堂林自治会のLINEグループ参加者を増やして
気軽なコミュニケーションを盛り上げていく
- * 自治会や区の垣根をこえた交流を広めていく
- * 究極の目標は、ブログを活用した収益化
(Google AdSenseやアフィリエイト)

6

⑥ IT活動の始めかた

(簡単に始めるファーストステップ)

- * 無料レンタル掲示板を活用して始めましょう!
teacup.byGMO (ティーカップ)
- * LINE や Twitter等のSNS(ソーシャルネットワークサービス)を
使った自治会コミュニケーションのグループを作りましょう!

掲示板やSNSだけでも十分なIT活動が始められます。

7

ご静聴、ありがとう

ございました!

8

静岡市のICTを活用した情報発信について

市政情報を各種広報媒体により、「伝える広報」から「伝わる広報」を意識し、積極的な情報発信に取り組んでいます。

インターネットが生活の一部に溶け込んでいる現在、静岡市でも以下のような媒体を活用し、市政情報の情報発信に取り組んでいます。

特に、ICTを活用した情報発信は、情報取得の場というだけではなく、市民自らも発信者となり、情報拡散の効果も期待できる重要なツールです。

市では、紙媒体やマスメディアなど複数の媒体を活用したメディア・ミックス広報を展開しています。

【ICTを活用した情報発信媒体】

媒 体	特 性
ホームページ	いつでも、誰でも、情報を閲覧することができるだけでなく、動画配信やSNS等と双方へ誘導ができます。
市長記者会見	市長がメディアへ、直接、PRしています。 記者会見の内容を市ホームページに掲載しています。 昨年まで、記者会見の様子（動画）を会見後に市ホームページに公開していましたが、今年から、ライブ配信も始めました。
報道資料	新聞・テレビ各社で構成される市政記者クラブへ、年間2,000件を超える市政情報を提供し、新聞紙面やニュースに取り上げられています。 昨年度からは、市ホームページにも掲載を始めました。
広報しずおか	市内の各世帯に配付している広報紙を、市ホームページに掲載しています。
SNS（ソーシャルネットワーキングサービス） フェイスブック【Facebook】 ツイッター【Twitter】 インスタグラム【Instagram】	特に若い世代の方への情報発信に効果的です。 ・写真や動画などを掲載でき、パソコンやスマートフォン、携帯電話で気軽に見てもらえる。 ・市ホームページに誘導できる。 ・災害時など、電話やメールがつながりにくい時でも、比較的つながりやすく、即時性がある。
市政広報ビデオ（番組）	市が制作した市政番組を、市ホームページ、YouTube、ケーブルテレビ等で放映しています。

住みなれた両河内に

3千人の人口が
たとえ2千5百人になっても



両河内地区連合自治会

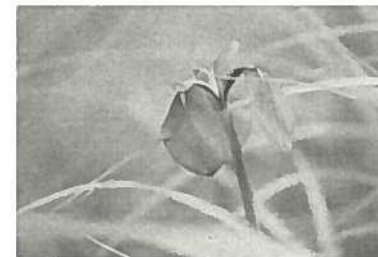
両河内の団体/自治会関連

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 連合自治会 | 26 体育会 |
| 2 教育子育て委員会 | 27 民生委員 |
| 3 インフラ環境委員会 | 28 保護司会 |
| 4 自治会コミュニティ活性化委員会 | 29 更生保護女性会 |
| 5 移住賑わい創出委員会 | 31 保健委員会 |
| 6~18 13地区単位自治会 | 32 シニアクラブ |
| 19 連合自主防災会 | 33 子ども会 |
| 20~21 2消防団 | 34 青少年育成推進委員会 |
| 22 交通安全会 | 35 両河内中学校PTA |
| 23 道路整備促進期成協力会 | 36~38 3小学校PTA |
| 24 防犯まちづくりの会 | 39 和田島子ども園PTA |
| 25 財産区議会 | 40 遺族会 |
| | 41 やませみの湯運営協議会 |
| | 42 生涯学習交流館運営協議会 |
| | 43 自然の家運営協議会 |
| | 44 グラウンドゴルフ場運営協議会 |
| | 45 興津川流域キャンプ対策協議会 |
| | 46 幼小中一貫教育準備会 |

役員の数400以上
会議イベントは1000超

まちづくり

環境、インフラ
教育
高齢者
賑わいの創出



組織とコミュニティ
各種団体、体育祭、敬老会

両河内の団体/その他

JA役員
部農会
漁協
森林組合
各種生産組合
商工会
用水
農業委員
...
TV組合

役員数は膨大な数



今必要なことは...

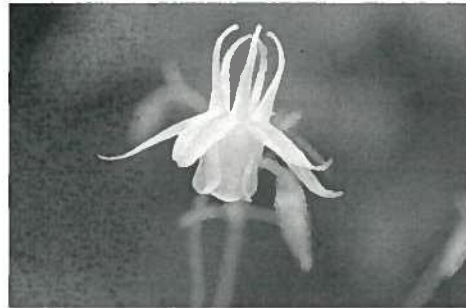
役員と会議イベントのスリム化

取組例 1

社協のスリム化

社協は…

- ・何のための団体か
- ・地域の弱者に寄り添っているか
- ・知恵と力を合わせているか



5

ここを変えた

役員選出・退任、任期
指示命令系統
市社協との情報共有
予算立て



規約の改正
会長が月例会で
連絡一本化
実行予算化

もっとも苦勞するS型スタッフへ光を

6

役員は

役員	29年度	30年度		29年度	30年度
会長・副会長・会計	3	3		評議員 校長、園長	5
正副企画委員長	2	1		" 地元福祉施設	1
S型委員長	1	1		" 駐在所	1
広報	1	1		" シニアクラブ	1
子育て委員	2	2	→	" 体育会	1
企画委員	19	19		" 青少年育成	3
顧問	1	2		" 保護司	1
理事 連合自治会	5			" 保健委員会	1
監事 "	2			" 民生委員	14
理事 単位自治会	8			" 主任児童委員	2
				合計	74名
					29名

7

総会の来賓は

総会への来賓	29年度	30年度
連合自治会長	1	
市社協	2	
保健センター	1	
交流館館長	1	なし
地元福祉施設	1	
駐在所	1	
校長、園長	5	
地域包括	3	
合計	15名	なし

5

取組例 2

敬老会を創る

主役はお年寄り



9

これまでの敬老会

対象400名、参加80名
会場は体育館、パイプ椅子
来賓50人、あいさつの連続

式典1時間10分
運営お手伝い40人



- | | | |
|----------|---|--------------|
| 会場中学校体育館 | → | 温泉センター大広間に |
| パイプ椅子 | → | 卓袱台にたたみ |
| 来賓50人 | → | 3人、本部席なし |
| 式典1時間以上 | → | 20分 |
| 自治会長は来賓 | → | もてなし役に徹底 |
| 例年の出しもの | → | お年寄りに受ける出しもの |
| 小学生のことば | → | なし |
| 中学生の案内 | → | 〃 |
| 女性部による送迎 | → | 〃 |

11

第1部式典は

【29年度】

9:00 開会のことば
お祝いのことば
賀寿該当者の披露
記念品贈呈
来賓あいさつ
来賓出席者紹介
温泉入浴券贈呈
祝電披露
メッセージ披露
小学生のことば
謝辞
10:10 閉会のことば

【30年度】

9:00 開会のことば
お祝いのことば
記念品贈呈
温泉入浴券贈呈
9:20 閉会のことば

第2部演芸は

10:20 大正琴
こども園うた踊り
踊り1
踊り2
健康体操
踊り3
踊り4
落語
踊り5
11:30 四季の歌合唱

9:30 こども園うた踊り
両河内劇場 1
健康体操
両河内劇場 2
ふるさと合唱 2

12

来賓は

衆議院議員	1	道路整備会長	1
県議	4	更生保護会長	1
市議	4	保護司会長	1
清水区長(行政)	1	遺族会長	1
中学校長	1	郵便局長	1
小学校長	3	JA支店長	1
こども園長	1	自然の家所長	1
自治会長	13	診療所医師	1
財産区議長	1	森林組合長	1
保健委員長	1	社協会長	1
自主防会長	1	民生会長	1
消防団長	2	青少年育成	1
		交通安全会長	1
		シニアクラブ	1
		包括センター	1
		市社協	1
		市保健センター	1
		合計	50 → 3名



13

両河内劇場

S15年～S30年までの
写真スライドショー



懐メロ

S15年～S30年頃流行した曲
両河内を代表する歌手に



14

おもてなしに徹する

自治会長も世話係



15

振り返って

お年寄りに「ありがとう。よかった」と
自治会長は忙しかった



16

地区社会福祉協議会について

平成 31 年 1 月 20 日 (日)
静岡市社会福祉協議会

1、地区社会福祉協議会（以下、地区社協）とは

地区社協は、私たちの日常生活の場に密着した小地域で活動する住民福祉組織です。地域住民の参加と協力により、私たちの身の周りに起きている生活上の様々な問題や地域の課題について協議し、各種の組織が協力体制をとりながら問題解決のための活動を推進していく「住民の自主組織」です。

静岡市においては、昭和 59 年に旧清水市内の 19 の連合自治会で組織化され、概ね小学校区や自治会連合会などの単位に設置され、平成 31 年 1 月現在、74 の地区社協が活動しています。

市内 **74** 地区に設置（葵区 35、駿河区 18、清水区 21）※未設置地区 2（葵区 2）

2、地区社協の組織

地区社協は「地域の福祉力」の向上を目指し、福祉のまちづくりの推進役として活動しています。地域内の各種団体が連携協力し、誰もが住みやすい福祉のまちを作っていくため、住民の主体形成や福祉ニーズの解決を目指した活動をしています。

構成員 自治会、民生委員、老人クラブ、子ども会、学校、PTA、ボランティア等

組織 理事会、評議員会、監事 企画委員会※
部会（ボランティア、S型、子育て、広報等）
※理事会等の執行部とは別に、事業の企画推進を行う企画委員会を設置していることが特徴

3、具体的な事業

- 住民の交流を促進する活動
 - S型デイサービス、子育てトークの会 等
- 個別の生活課題を支える活動
 - 地区ボランティアセンター、居場所、支え合い活動 等
- 組織を強化する活動
 - ボランティアグループの育成、福祉バザー 等
- 福祉の心を育む活動
 - 広報紙の発行、福祉講演会、福祉まつり 等
- 生活課題を把握する活動
 - 住民懇談会、住民意識アンケート、マップ作り 等

S型デイサービス

65歳以上の高齢者を対象に、介護予防、つながりづくり、支え合いを目的に、遊びリレーション、健康体操、会食等を実施。

市内 68 地区 272 会場で実施

子育てサロン・トークの会

子育て中の親子（0～3歳程度）を対象に、子育て支援、つながりづくり、支え合いの推進を目的に、身体測定、歌、手遊び等を実施。

市内 52 地区 75 会場で実施

4、設置条件等

地区社協は、その地域の実情に合わせ組織化されており、モデルとして示している組織構成はあるものの一律の体制ではありません。地域内の諸団体の中で設置に関する合意がとられ設置されています。

敬老会の実施状況について

1、敬老行事実施状況（平成 30 年度）

	自治会・町内会			老人福祉施設等	開催無し
	合同開催 (連合)	合同開催 (連合以外の 複数自治会)	単独開催		
葵区	31	2	105	16	4
駿河区	12	3	77	14	0
清水区	16	0	95	18	2
計	59	5	277	48	6
合計	389				

2、敬老行事実施方法内訳（平成 30 年度）

実施方法	自治会・町内会	老人福祉施設等
式典開催	264	46
記念品のみ	77	2
計	341	48
合計	389	

3、静岡市の支援について

本市では、老人福祉法に基づき、敬老行事の実施を奨励・支援するため、敬老行事を実施する自治会・町内会や老人福祉施設等に対して以下のとおり補助金を交付しています。

補助対象となる行事

- ①高齢者と地域における多世代の方との交流（地域住民を招いて行う祝賀会等）
- ②高齢者に対する記念品（商品券その他の金券の類を除く）の贈呈
- ③飲食等を伴う高齢者相互間の懇談又は交流（昼食を兼ねた祝賀会等）

補助金額

補助金単価（2,500円又は1,500円） × 対象者数（80歳以上の人数）

※上記②のみ実施する場合に限り補助金単価1,500円

敬老行事の実施方法（日時・場所・内容・招待者・記念品の選定等）については、各地域の事情に応じて、行事を主催する各自治会・町内会で決定していただいております。

自治会・町内会への 依頼事務に対する負担軽減 に係る取り組みについて

静岡県 市民局 市民自治推進課



依頼事務調査の概要について

- ▶ 目的 市から自治会・町内会をはじめとした地域団体に対し依頼している事務事業を把握するため。
- ▶ 調査対象 平成28年度に依頼した事務事業
- ▶ 実施時期 平成29年8月
- ▶ 対象事業 各所管が単位自治会・町内会及び学（地）区連合自治組織（自治会連合会等）、又は特定のテーマや分野を活動目的とする各種地域活動団体（学区交通安全会、地区社協、老人クラブ、PTA、自主防災会等）へ依頼した事務事業と見直し状況
- ▶ 依頼件数 335件

区分	依頼等の概要	
	内容	件数
① 委員等の推薦	・投票立会人、市民事務従事者の推薦 ・民生委員・児童委員候補者の推薦 ・交通指導員の推薦 ・その他審議会、協議会等の委員の推薦 ほか	34件
② 維持管理等	・家庭ごみ集積所の維持管理 ・観光トイレ、遊歩道等の管理 ・道路、林道等の維持管理 ・海岸清掃 ・公園の維持管理（愛護会） ほか	28件
③ 回覧の配付等情報の周知	・月1回行政文書の配付 （広報紙やその他回覧文書、ポスター掲示149件） ・道路等工事の内容・期間のお知らせ ・イベント、その他市主催事業の周知ほか	188件
④ 会議等への出席	・各種審議会、協議会へ委員としての会議出席 ・事業説明会への参加 ・区の魅力づくり事業への参加 ほか	50件
⑤ 各種申請等のとりまとめ	・各要望事項（公園、防犯灯等）のとりまとめ ・各種アンケート等のとりまとめ ・臨時ごみの申請等とりまとめ ほか	20件
⑥ その他	・防災訓練・避難訓練 ・日赤会費募集への協力 ・静賞奉賛会への協力 ・敬老祝金贈呈業務 ・災害時要援護者名簿台帳の管理 ・静岡マラソンボランティア依頼 ほか	15件

行政文書配付部数実績

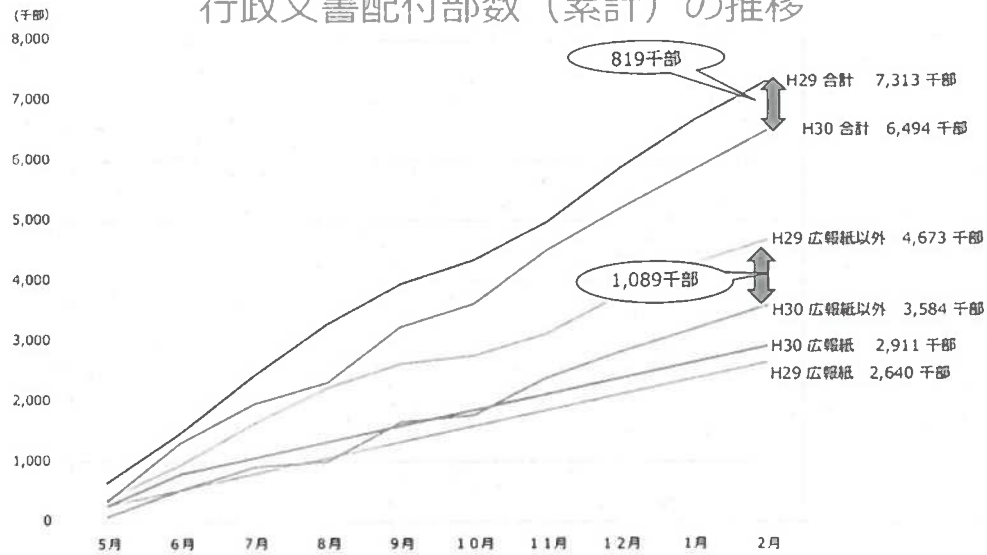
累計部数

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
H29	広報紙	264,200	528,400	792,400	1,056,400	1,320,400	1,584,400	1,848,400	2,112,400	2,376,400	2,640,400
	広報紙以外	385,270	945,690	1,632,300	2,223,390	2,621,590	2,754,950	3,121,420	3,758,700	4,288,240	4,672,960
	合計	649,470	1,474,090	2,424,700	3,279,790	3,941,990	4,339,350	4,969,820	5,871,100	6,664,640	7,313,360
H30	広報紙	264,000	790,500	1,055,500	1,320,500	1,585,500	1,850,500	2,115,500	2,380,500	2,645,500	2,910,500
	広報紙以外	82,340	526,400	903,210	992,870	1,647,950	1,761,370	2,389,790	2,817,500	3,196,580	3,583,610
	合計	346,340	1,316,900	1,958,710	2,313,370	3,233,450	3,611,870	4,505,290	5,198,000	5,842,080	6,494,110

H29-H30比較

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
前年比	部数	303,130	157,190	465,990	966,420	708,540	727,480	464,530	673,100	822,560	819,250
	広報紙	-0.1%	49.6%	33.2%	25.0%	20.1%	16.8%	14.5%	12.7%	11.3%	10.2%
	広報紙以外	-78.6%	-44.3%	-44.7%	-55.3%	-37.1%	-36.1%	-23.4%	-25.0%	-25.5%	-23.3%
	合計	-46.7%	-10.7%	-19.2%	-29.5%	-18.0%	-16.8%	-9.3%	-11.5%	-12.3%	-11.2%

行政文書配付部数（累計）の推移

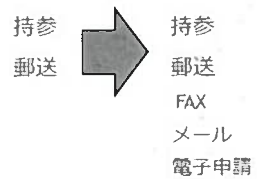


行政文書以外の対応

- ▶ 市内の小中学校やこども園、交番に対して、自治会・町内会への回覧文書等の依頼時期を市からの依頼文書配付のタイミングに合わせていただくよう協力を求めています。

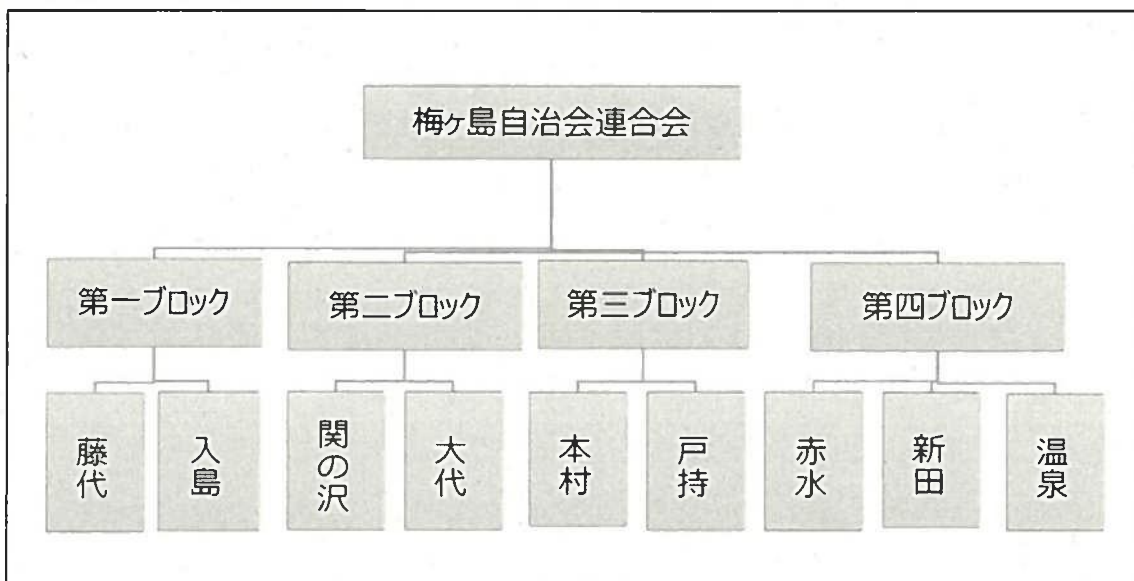
市役所への書類提出方法について

- ▶ 押印の省略について見直し
- ▶ 提出方法の選択肢を広げる

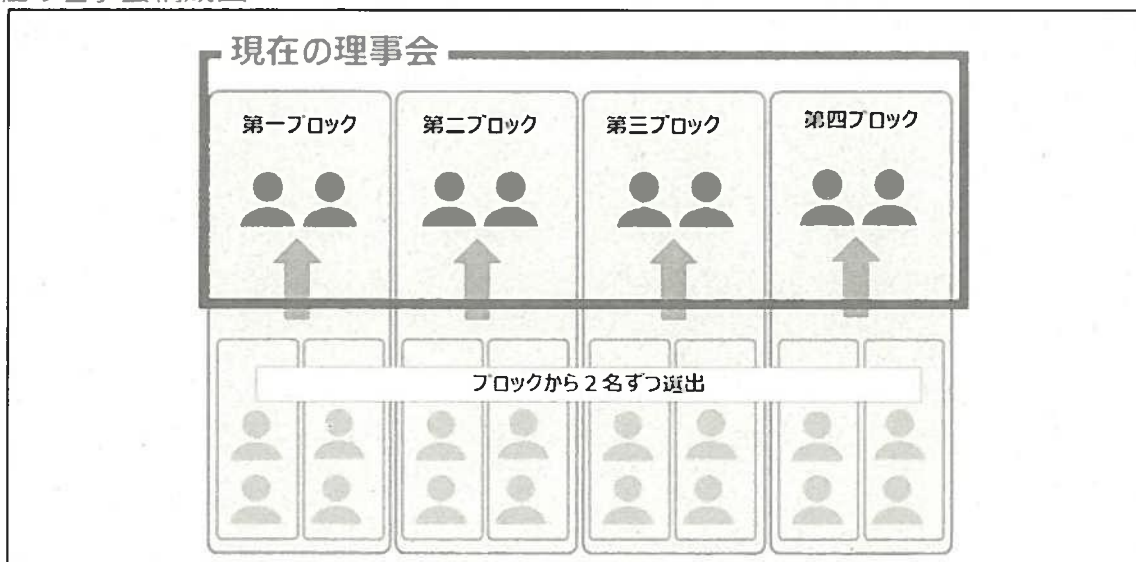


【梅ヶ島地区 組織図】 (平成30年1月時点)

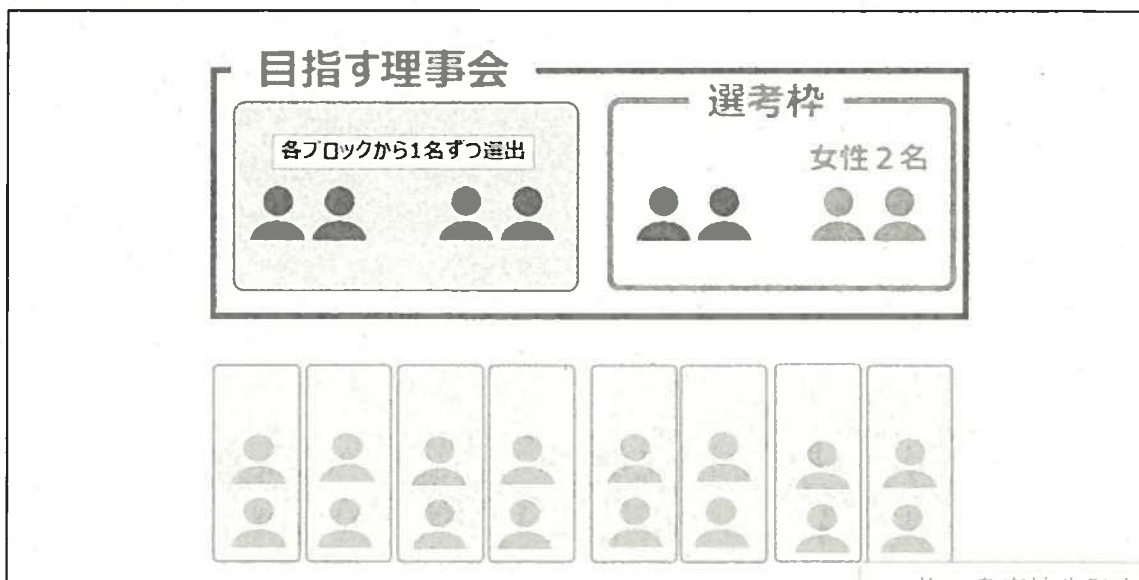
イ.梅ヶ島自治会連合会組織図



ロ.現在の理事会構成図



ハ.目指す理事会構成図



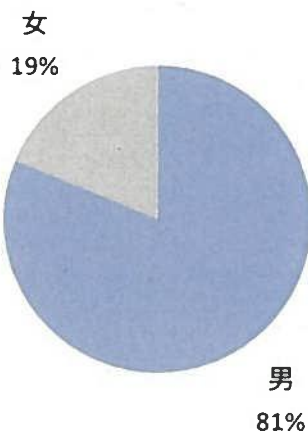
しずおか自治取組発表会 開催状況写真



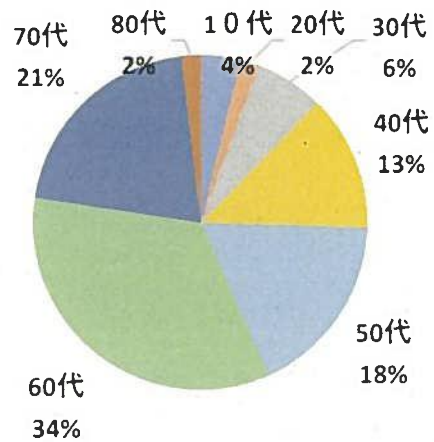


しずおか自治取組発表会 参加者アンケート集計

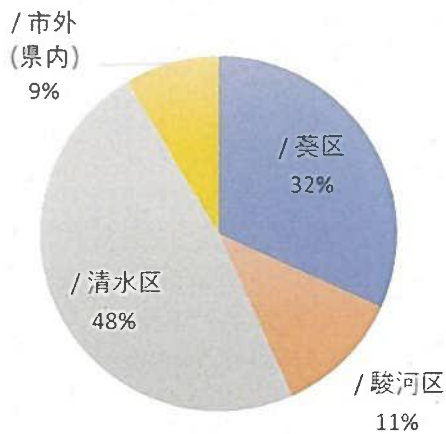
Q1参加者の性別



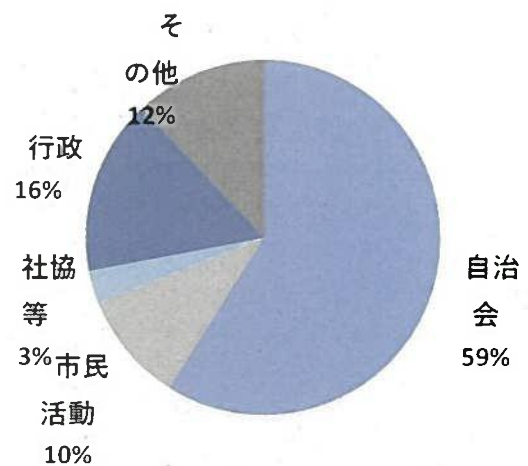
参加者の年代



参加者の居住地

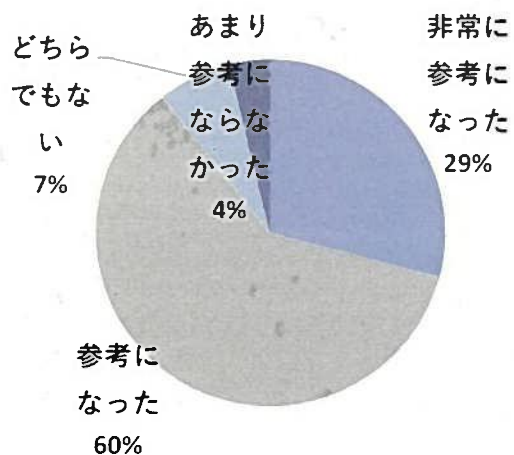


参加者の所属

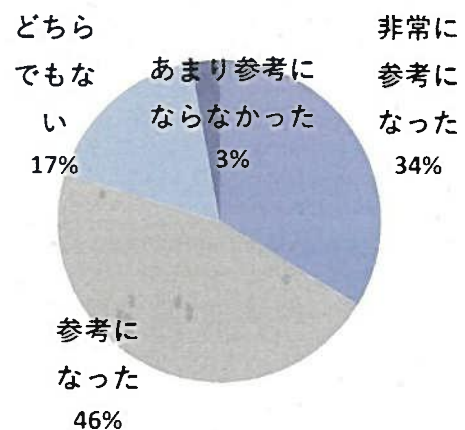


Q2 各地区の取組について参考になりましたか？

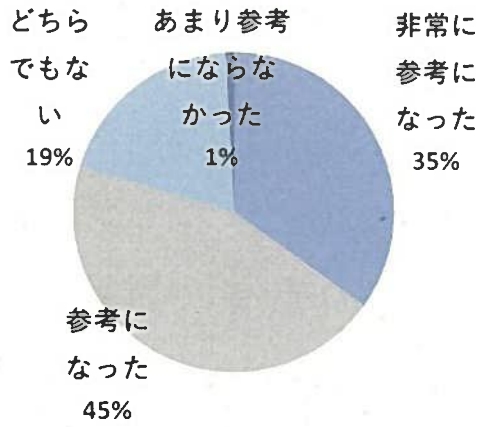
《吉川自主防災会 防災訓練》



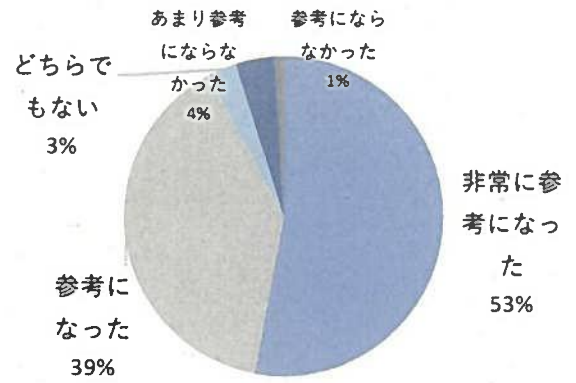
《丸子ときわ町 資源ゴミ》



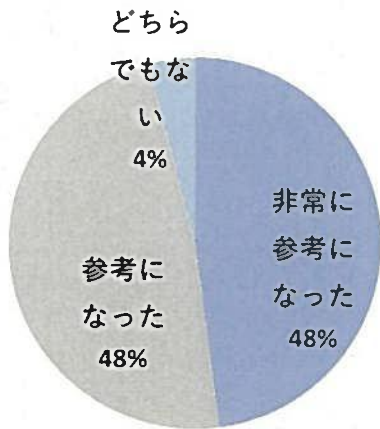
《堂林自治会 IT化》



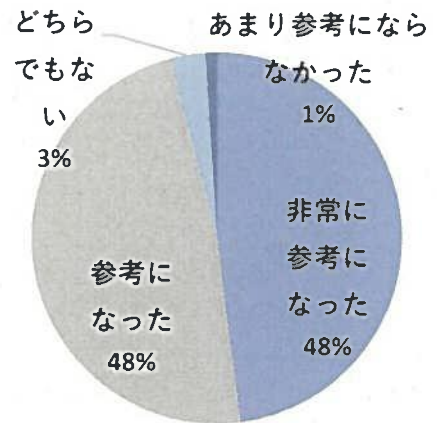
《両河内地区 自治会活動の見直し》



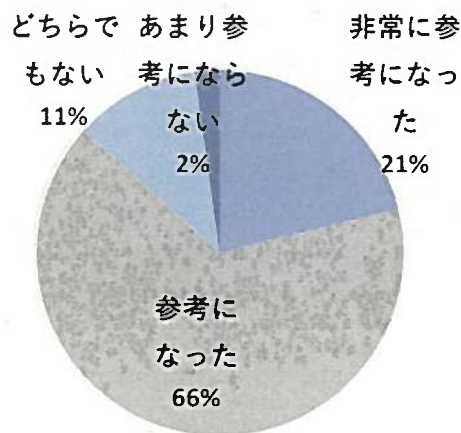
《高校生 梅ヶ島》



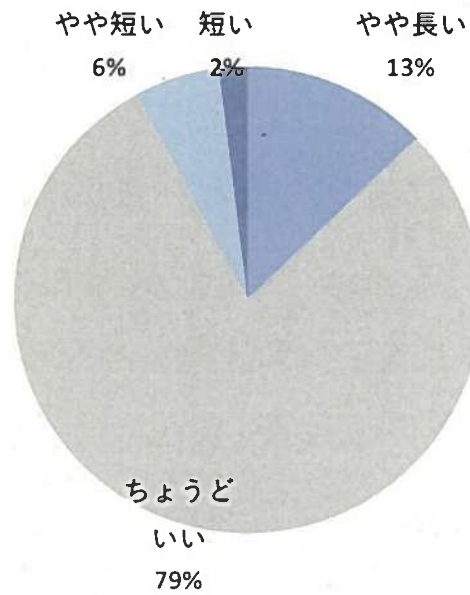
《高校生 両河内》



《静岡市市民自治推進課》



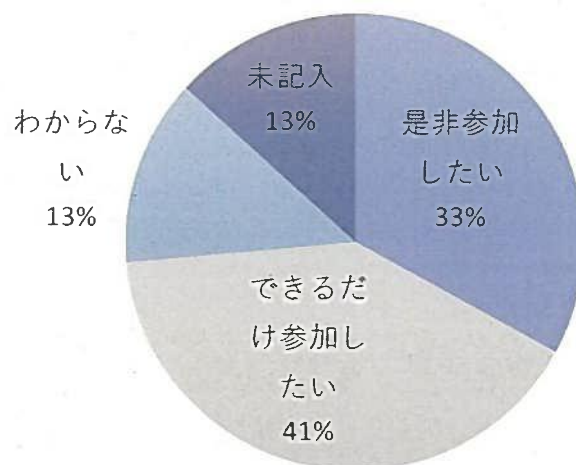
Q4 開催時間はどうでしたか？



Q5 発表会の満足度を教えてください。

85点 / 100点満点中

Q6 来年度も、このような取組発表会があったら参加しますか？



Q7 来年度、発表してもらいたい地区と取り組み

大川	移住定住促進の取り組み
玉川	中学校の活用について
伝馬	おねりの取り組み（初合？浅間神社）
①西豊田②駒越	①要配慮者をまじえた防災訓練②地区ボランティアセンター設置
駒越	共同募集の便途限定の募金を活用した買い物バスの運行。共同募金を活用することで寄付者、企業は？こーじょがある。地域住民も自分たちのために寄付ができる。
マークスザタワー東静岡	タワーマンションにおける自治会活動。“コミュニティー形成を通じ、有事の際に共に助け合える関係づくりを！”推薦します。自治会長岡井聖一080-3113-9888

地区名なし

若い人への自治会活動への啓蒙・加入
自治会への参加者が増えた事例の紹介
三役などの選出方法。任期などの考え方。健康維持・施策（男性の参加促進）
組織体制、役員を選出方法、役員の任期・報酬
終活をふまえたコミュニティー・防災など 若い人の参加
S型デイ（・・・負担が多すぎませんか？静岡市のやり方とても疑問です）
いろいろなパターンの交通弱者の移動支援
別途ご連絡します
ITによるデータベース化と運用

Q8 自由意見

ペースが早い。高校生の発表がとてもよかった。
高校生の取り組みに、いいね！×100です。
大変いい催しなので、続けていってほしい。・市内だけでなく、他市町の事例もあると面白いと思います。・もっと市職員が聞いた方がよいと思います。
発表会のやり方がよかったと思う。
次回も参加させていただきたい
やはり、ひとつで動くのではなく回りに助けってもらうことが大事なのかなと思います。」
特に防災の企画をしていただきたい。
少子化問題がやはり大きいですね
別イベントと掛け持ちですべて聞けなかったのが残念ですが、様々な話が聞けて良かったです。
良い取り組みをぜひ水平展開できるようになったら良い。最終的には地域のやる気次第だが、やり方をレクチャーする手引きがあると良い。
もう少し広い会場で多くの自治会関係者を研修してもらう場にしてください。進行の里山くらしラボさん、上手くまとめていただきありがとうございました。市長さんも参加してください。発表、取り組みを地域デザインカレッジにつなげてください。
汎なしの扇型でもいいかも。バインダー＋フセンで！！
時間が短いので、内容を絞っては？質問の内容を開示してほしい。
共通の話題解決に向けヒントを得た。里ラボの運営に感謝したい。」
・高校生を発表者にいれることは、経験豊かな参加者の心に響くのではないか。非常によい発表形式と思う（自治会役員など）・各自治会の話し合いの場に、高校生あたりを入れこむアイデアを提案したい。
防災について 伝馬町小学校は、静岡近隣帰宅困難者を対象にしていることから、地元住民区別するのにどのようにしたらよいか
里ラボさん大変ですが続けてください
発表会の進行を行政がやらないことがよかった。ふせんでその場で会員から意見をもらうことが今後の参考になる。
雰囲気も良く、皆さん前向きで参考になりました！職員さんもスタッフさんも里ラボさんもみなさんお疲れ様でした！
様々なジャンルのテーマの発表があり、皆さんの参考になったと思います。テーブルでの議論もあつかったです。すばらしい学び合いの時間でした。ありがとうございました。
このような機会をつくっていただきありがとうございました。今後の活動に活かしていきたいと思います。
取り組み内容の詳細を各単位自治会へ広く周知してもらいたい
市に対して一言。何かをしようとする金がないと市が言う。長期人口減少で、もっと大ネタを振るって、住民の欲しいところに配分できるようにしてほしい。
良い企画だと思いますので、ぜひ、継続してください。各自治会町内へのPRも。発表内容の資料もフィードバックしてください。
自治会活動の前進を真剣に考えている自治会があることをしりました。良かったです。
今回の取り組みが継続されていることを各連自治会（長）に知らせてもらいたい。
前回発表内容のモニタリング報告が行われたのはとても良いと思いました。報告のスライドを統一フォーマットにして発表内容の均質化がされると聞きやすい。取り組み内容→成果だけでなく、ほかの自治会が導入するために参考になるポイントに絞って話を聞きたいと思いました。感想と質問の受け方はみんなとも共有でき、効率も良くていいやり方だと思いました。各発表に対する市の補足も参考情報としてとても役立ちました。
参考になることがたくさんあった発表会でした。ありがとうございました。
(1)自治会の市の中での位置づけの明確化→自治基本条例の中に条文化し「共助」の形の確立を。(2)住民の参加は期待できるが「役員になり手が無い」の対策「報酬」の公的認知
自治会トップに女性がい無い。防災の面でも必要。女性の方がコミュの能力が高いので、使うべし！高校生の参加、GOOD!

Q8 自由意見

それぞれの地区の取り組みを聴かせていただきとても参考になりました。高校生と市民自治推進課の発表もとてもよかったですと思います。こうやって自分の住む静岡のために取り組む人たちの存在を心強く感じました。里ラボさんの企画や進行もすばらしかったです。ありがとうございました。
葵区・駿河区の街中の自治会の報告を取り入れてほしい。
高校生の発表はよかったです。改めて、自分の地区のことを考えるきっかけになりました。
感染症対策の観点から開催時期の検討は？
高校生の意見が楽しく、たのもしく聞けました。
各地域の取り組みは大変参考になります。現状維持が一番楽なところを、改革に取り組む姿勢には敬意を覚えます。
自治会に関してもっと勉強しようと思う。男性・年配の方がやはり多かった。もう少し我がことで活動の必要があると思う。
大変参考になりました。ありがとうございました。
会場が狭く、進行内容に無理があり、改善が必要である。せっかくの機会がもったいない。効果のある内容に。
質問が多くあると思うが、もう少し説明が欲しい。感想部も発表してほしい。
スリム化によって必要な人材が各会議に入らないことがないかが心配効率化の一方で力を入れるべきところにしっかりと地域のキーパーソンを取り込む視点が必要と感じた。
おじさんが多い。(私もだが・・・)女性の活用が必要。どの自治会の発表も全市共通の課題だと感じました。自治会役員意識改革だけでなく、住民個々の意識改革が必要だと思います。役員と一般住民とのギャップを埋めることについてノウハウを先進自治会で示していただくと良いかと思いました。※「災害時要支援者」の把握と台帳の活用は中々できないのが現状である。行政も自治会民生委員に「おまかせ」しないで対策を講ずるべきだと思います。広島市では、障害福祉サービスを利用する際に義務付けされている「サービス等利用計画」に「災害後の支援」を記載するようになっている。障害のケアマネといわれる相談支援専門員が障害の要支援者を把握している。これを高齢介護サービスのケアプランに広げればお金がかからずリスク管理が可能です。(モニタリングがあるので、定期的に状況の変化もつかめます。)高齢者の総合調査では同居している家族がある場合対象になりませんが、いわゆる「8050」問題と言われる高齢者と障害者の同居も多いのが現状です。
現状にあったテーマで、参考になりました。
中学生の意見も聞いてみたいです。街づくりのために来年度もお願い致します。
高校生が参加していて、とても頼もしく感じました。
高校生などが場にいるだけで、会場内が未来志向になりますね。とてもよかったです。ありがとうございました。「ココバス」のことなど、もっとききたかったです。
丸子地区以外の駿河区の発表がないのがさみしいです。広報誌のイベント情報もいつも葵・清水区ばかりでほとんどないのですがなぜでしょう？
行政職員としても各分野の各地域の動きや取り組み・思いを知ることができとても有益だと思いました。高校生の発表に感動しました。
里ラボさんの進行はテンポよくて良かったです。
もぐもぐタイムがいい。里ラボさんの前振りがいい。理解しやすくなる。ふせんのやり方がいい。
とてもよい取り組みなので、今後も継続していただければと思います。多くの気づきを得ることができました。ありがとうございました。
司会者をなぜ外注するのか。市の職員が多くいるのに、費用削減の気持ちはないのか。しの自治会への文章契約？もムダが多 業務改革の???！?
氷見市でも地域自慢大会を開催していますが、清水区さんのような熱気はありません。すばらしいです。氷見市もまげずがんばります。ありがとうございました。お茶(緑茶)おいしかったです。
自治会の後継者の問題で困っています。他の地域ではどのようにしているのですか。

Q8 自由意見

来年も続けけて下さい。

来年は参加できませんが、来年も杉山君がきてくれます。これからも静岡農業高校をよろしくお願いします。建設会社でがんばります。

とても勉強になりました。各地区がよりよく発展することを祈っています。

今回の発表会は両河内、吉川自主防災など、とてもいろいろな地域について理解できました。来年も頑張って梅が島のことについて発表したいと思います。

各自治会に聞かせたい企画でした。

講演会形式でもよかったのではないのでしょうか。発表すばらしかったです。追跡発表もとてもよかった。

分科会を設けて参加したいなと思いました。特にIT化についてさらに勉強させていただきたいと思いました。

未来を担うケスト

静岡県立静岡農業高校 チームオクシズ 梅ヶ島&両河内

星野君、小泉君、杉山君の男子生徒3名からなるチーム梅ヶ島と、両河内在住の小林さん。今年の自治取組発表会でも人気の的でした。



中高生の地域連携がよく話題にのぼりますが、この発表会では地域の大人の背中を見せることが何よりの理解を深めると考えています。

梅ヶ島地区は女性の役員登用をはじめとする組織改革のその後について取材。女性の参画により変化がなかった自治会の会議が活気づいたこと、女性役員感想などを報告したのち、役員会の回数を減らし負担を軽くすること、行事日程を重複させない、活動の効率化などを高校生の目線から提案しました。自分たちは子育て世帯が安心して遊べる空き地の公園化、お茶の研究を通し梅ヶ島のお茶を全国へ発信すること、野菜の勉強を地域で生かし梅ヶ島を活気づけることなどで今後貢献していきたいと語ってくれました。

両河内地区に生まれ育った小林さんは、ココバスができ高齢者が好きな時に好きな場所へ出掛けられるようになり利用者が3倍になったこと、運転手との交流で社会復帰された方がいたなど報告。中山会長が高校生も通学に使えるよう、庵原まで路線をのぼしたいと考えていることに感謝を述べながら、まさにココバスは地域を支えている、私も何が出来るのか考えたいと発表しました。



女性や若い子育て世帯が参画できるように、様々な活動の見直しが必要だと提案した上で、自分達がやっていきたいことも発表。チーム梅ヶ島の決め台詞「死ぬときは我が故郷梅ヶ島で」を発表を締めました。

静岡市 市民自治推進課

自治会から「市からの依頼文書が多い」との意見を受け、削減に取り組んだ静岡市が発表。

負担になっていた市からの文書の配付依頼を、広報紙に記載したものは重ねて世帯配付や組回覧を行わないことを徹底。23%の削減を行った。また小中学校や交番の配付依頼も市の配付時期にあわせるよう協力依頼。書類への押印の見直しやFAXや電子申請など書類提出方法の選択肢を増やし負担を軽減するなど、多角的な取り組みを発表。

「清水区自治会連合会 高山会長」
自治会の基調は安心・安全。課題があろうとも発表できるところまで持っていくことが非常に難しく、さらにまちづくりや活性化と言ってもひとくくりにはできないのが現状。参加された方は発表内容から得たヒントを取り入れ、各地で頑張っていたと開会の挨拶をいただきました。



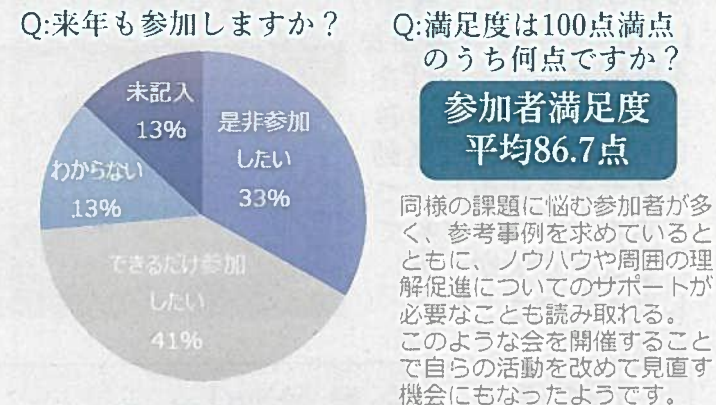
持ち帰って ぜひ実行を！ 継続が大事。

静岡市自治会連合会 瀧会長が昨年に引き続き総評を述べて下さいました。

「静岡市自治会連合会 瀧会長」
発表団体が様々な課題に取り組んでいることがわかる素晴らしい取組発表会でした。引き続き活動し、異なる課題にも取り組んでいただきたい。今回も非常に大勢の方が参加をしてくれたので、ひとつでも身につくよう持ち帰り実行してほしい。自治会は年齢を問いません。高校生もぜひ自治会へ加入して下さいと笑顔で締めくくりました。

「静岡市市民局 豊後局長」
発表者の工夫から学ぶことが多く、行政として何が出来るのか考えていきたいと思った。参加者が記入した付箋の数の多さはまさに互いに学び提案しあうことができた証拠。意義のある時間となった。地域作りのためにこの発表会が持続可能であればと思いますと語りました。

【参加者アンケート】

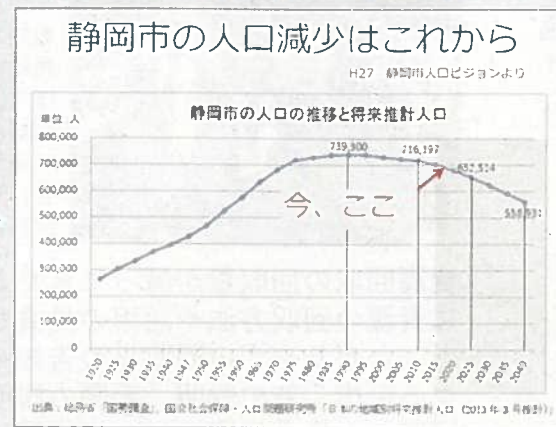


「参加者の感想」
ひとりで行くのではなく周りに助けてもらうことが大事なのかなと思いました。良い取り組みをぜひ水平展開できるようになったら良い。地域のやる気次第だが、やり方をレクチャーする手引きがあると良い。共通の話題解決に向けヒントを得た。取組発表会の運営に感謝したい。雰囲気も良く、皆さん前向きで参考になりました！
取組み内容の詳細を各単位自治会へ広く周知してもらいたい。自治会活動の前進を真剣に考えている自治会があることを知りました。よかったです。
各自治会に関かせたい企画でした。
分科会を設けて参加したいなと思いました。特にIT化についてさらに勉強させていただきたいと思いました。
講演会形式でもよかったのではないのでしょうか。発表はどれもすばしかったです。追跡発表もとてもよかったです。

平成30年度静岡市協働パイロット事業

しずおか自治取組発表会 2019冬

静岡市の人口減少や高齢化はここから加速度的に進んでいきます。そして税収が減少しながらも、社会保障費や公共施設の維持費は増加し、財政が逼迫することが予測されています。行政サービスの縮小や補助事業の減少等が予想されるなか、自治会などの地縁組織による地域活動が、住民の日々のくらしやすさに強く影響する可能性が見えてきます。



高まりつつある関心！ 昨年より多い 135名が参加！

発表会当日は、静岡市内の自治会役員のみならず、関係者はもちろん、静岡市議のみならず行政、社会福祉協議会の職員、遠く岡山県や富山県からも参加がありました。

「しずおか自治取組発表会」
平成31年1月20日(日) 13:30~16:00
場所:静岡市清水庁舎 第3会議室
~当日の次第~

- 開会挨拶
- 趣旨説明
- 取組み発表など(前半)
有事を見越した防災訓練(吉川自主防災会)
資金不足の解消(丸子ときわ町自治会)
高校生から見た地域の取組み①
(両河内地区が運営する移動手段のその後)
~休憩・お茶請け付~
- 取組み発表など(後半)
前半発表2地区への質問、回答
自治会のIT化(堂林自治会)
活動を見直してコンパクトに(両河内地区)
市民自治推進課の取組みについて
高校生から見た地域の取組み②
(梅ヶ島地区の組織改革のその後)
後半発表2地区への質問、回答
- 総評

どの自治会でも抱える 同じような課題。 その答えは市内にあった。 静岡市内の好事例が集結！

静岡市内には自治会を筆頭に多数の地縁組織が存在し、暮らしやすい地域作りのために多種多様な取り組みを行っています。しかし地域活動について情報交換が行われる機会は少なく、たとえ市内に優れた事例があっても知らないままに過ごし試行錯誤を繰り返しているようなことが多々あります。全国各地に先進的な事例はありますが、立地や慣習条例などが異なるため、参考にならない点も多く、チャレンジしても徒労に終わることがあります。まずは、同じルールのもと、すぐに聞きに行ける市内の事例から学ぶことが重要だと考え「しずおか自治取組発表会」を開催しています。地域の課題を最も把握しているのは、行政職員でも専門家でもありません。そこに暮らす人々が、実感をとまなう課題に対し自ら立ち上がり、試行錯誤を重ねることが、課題解決へとつながる一番の近道であり、暮らしやすい地域を作っていくことになるのだと考えます。(里山くらしLABO)

主催:静岡市(市民局市民自治推進課)
企画運営:里山くらしLABO(labosatoyama@gmail.com)
(人口減少がすすむ中山間地域を主に、持続可能なコミュニティづくりを支援する任意団体。地方新聞46紙と共同通信が設けている「第8回地域再生大賞」において特別賞を受賞)
問い合わせ:054-221-1265(市民局市民自治推進課)

静岡市内の知られざる 素晴らしい取組が集結!

吉川自主防災会 (清水区有度地区)

『有事を見越した防災訓練』

国道一号線を挟み南北に広がる人口約2800名の吉川自治会。津波や地滑りなどの心配はないものの有事の際に国道が規制され地域が分断、さらには幅員の狭い道路を緊急車両が通行できない可能性があることを正確に把握し、発災時に本当に役立つ防災訓練を多角的に行っています。

吉川自主防災会の廣田会長、杉山部長、そして吉川副部長が発表。吉川地区で頻りに行われている防災訓練の詳細について写真を用いてわかりやすく発表してくれました。



吉川自主防災会では、防災倉庫を地域内6か所に設置し、資機材を充実させ、毎月のように各地で防災訓練を実施しています。

訓練では有事を想定し、参加者ではなく不参加者の把握を行う、狭い道でも有効な可搬ポンプやチェーンソーの取り扱いを住民にも伝授し、運動会ではテント設営も訓練のひとつと考え住民が役員の手を借りずに設置に挑戦する工夫を行っています。さらには地区体育大会の昼食を炊き出しでまかなう、放水訓練の時には側溝掃除を兼ねるなど、さまざまな地域活動に防災訓練をうまく組み込みながら住民の自主防災力を高める工夫をしています。

狭い幅員の道路が多い吉川地区では消防車が入れないような場所も多く、火災発生時には消防用水の確保が重要になります。事前に水路に板をはめこめるように工作し、有事の際には板をはめ込むことで水位をあげ、可搬ポンプで水を吸い上げられるように備えています。



ちょっとひと息

休憩時には清沢地区の清沢レモンを使い県立静岡商業高校生が商品開発を行った『清沢レモンティシフォン』や前年に逝去された静岡の宝「さくらももこ」さんを偲んだ、漫画「ちびまる子ちゃん」にも登場する『追分ようかん』がお茶請けとして登場しました。



ひと息つける「モグモグタイム」は参加者にとって貴重な交流の場にもなっているようです。

高校生が発案した清沢レモンを使用したレモンティーが香るシフォンケーキは、参加者に大好評でした。

丸子ときわ町 (駿河区長田西地区)

『自治会活動資金の安定調達を』減りつつある資源回収の古紙回収量を増やし、資源回収業者と直接売買を行うことで調達資金を増やし自治会の活動資金として活用。防災倉庫や軽トラックを購入したり、地区内の街頭のLED化を行うなど、暮らしやすい地域づくりに役立っています。



「もったいないと思いませんか」と参加者に問いかけ地域の資源を効率よく資金化し、住みよい暮らし作りに役立てましょうと提案を行う静岡市廃棄物減量等推進委員兼丸子ときわ町委員の藤原さんと大石さん。

資源回収の回収量が減ってきたことをきっかけに資源の回収方法や活用の見直しをはじめました。わかりやすい回収日の告知やイラスト付のゴミの出し方の説明、手順の説明はもちろん、回収のお礼を住民に対して頻りに告知するなど細かな説明を重ねたり、業者の協力を得て保管作業を実施するなど小さな改善を積み重ね、資源の回収量を増加させています。

人口およそ1900名の丸子ときわ町では、住民の協力により毎月約トラック4台分の古紙と約1台分のアルミ缶が回収され、年間70万円ほどの資金へと生まれ変わっています。



そして、集めた資源の利益をあげるために、回収業者と直接交渉を行い、アルミ缶を直接自治会から購入してもらうことで、市の奨励金とは別にアルミ缶の売上も自治会で確保。地域の資源の活用を行政などに頼ることなく見直すことで、700世帯で毎年約70万円の資金を捻出し続け、集まった資金を地区防災や防犯などの地域活動に役立っています。

堂林自治会 (清水区岡地区)

『自治会活動のIT化』

自治会内の訃報を筆頭とする緊急連絡用の情報網確立の必要性から、ウェブサイトを利用した閲覧板の検討をスタート。無料の交流掲示板を利用した双方向の情報共有を行うことからはじめ、その後も試行錯誤を繰り返し、いつでも誰にでも伝わる情報共有を行っています。



堂林自治会のホームページ。地域情報の掲載に限らず、交流のための掲示板や問合せ先をわかりやすく表示。イベントの写真を見せることが多くの人に見てもらったことだIT担当の齋藤さんは話しました。

堂林自治会

堂林自治会ホームページアドレス: <http://doubayashi.org/>

IT化により自治会や区を超えた団体との交流促進に至っており、今後は訪問者に役立つコンテンツの増加やSNSの登録者数を増やすことで自治会の気楽なコミュニケーションを促進し、様々な団体との交流を深め、最終的に収益化まで目指したいと発表しました。費用についての質問には年間6000円ほどでできると回答し、会場からは驚きの声があがりました。簡単にIT化を進めるヒントとして、無料のレンタル掲示板の活用や、LINEやFacebookなどのSNSを使った自治会のグループを作ることを挙げてくれました。

LINEについては勉強会を開催することでITを苦手とする高齢者の巻き込みを促進。IT活動はスマホを活用し、できることから始めてみるのが大切だとしめくりました。



両河内地区連合自治会 (清水区)

『自治会活動の見直し』

人口減少問題に直面する両河内地区では、自分達は一切何をすべきか?について何度も話し合い、地域活動や組織の見直しを行っています。

自治会関係の役員だけでも400、イベントは1000を超えており、見直さなくてはならない状況下だったと語ってくれた中山会長。自身も20以上の役を兼務している。



継続している地域活動の見直しの中から、組織は地区社会福祉協議会の例を、行事は敬老会の例を挙げて発表してくれました。地区社協の役員で何度も話し合ったのは団体の目的について。74の役員は20に見直され、総会の来賓もゼロとなりスリム化されました。敬老会の見直しは主催サイドみんなが「主役はお年寄り」という目的をわかっていけばいいと説明。1時間10分かかっていた式典を20分にし会場も体育館から温泉センターへ変更、パイプ椅子に座っていた高齢者は座敷でくつろぐスタイルに。来賓も50名を3名へと見直し、敬老会のメインを「両河内劇場」と名付けた懐かしの写真スライドショーと時代にあわせた流行歌の生演奏へと変更。自治会長がエプロンに身を包み「おもてなし」の心をもって高齢者のために開催する敬老会になった。参加者が心から喜んでくれた会になったと話してくれました。

パイプ椅子で1時間以上座っていた式典から、高齢者が楽しめる会へ。コツは内容が目的にふさわしいか確認することだと発表しました。



《来場者は全員参加!》



今年も参加者は発表を聞くだけに限らず、各発表内容について考え「質問」「感想・意見」をそれぞれ付箋紙に記入。回収して模造紙にまとめたのち、付箋の内容から各発表者へ質問をし、発表内容の詳細について深掘りを行いました。

台紙に入りきらないほど沢山の付箋。発表内容の人繰りや資金、具体的な方法についての質問も多く、自らの地域で実行するにはどうしたらいいのか、具体的なヒントを得ようとする参加者の真剣さも現れていました。

